

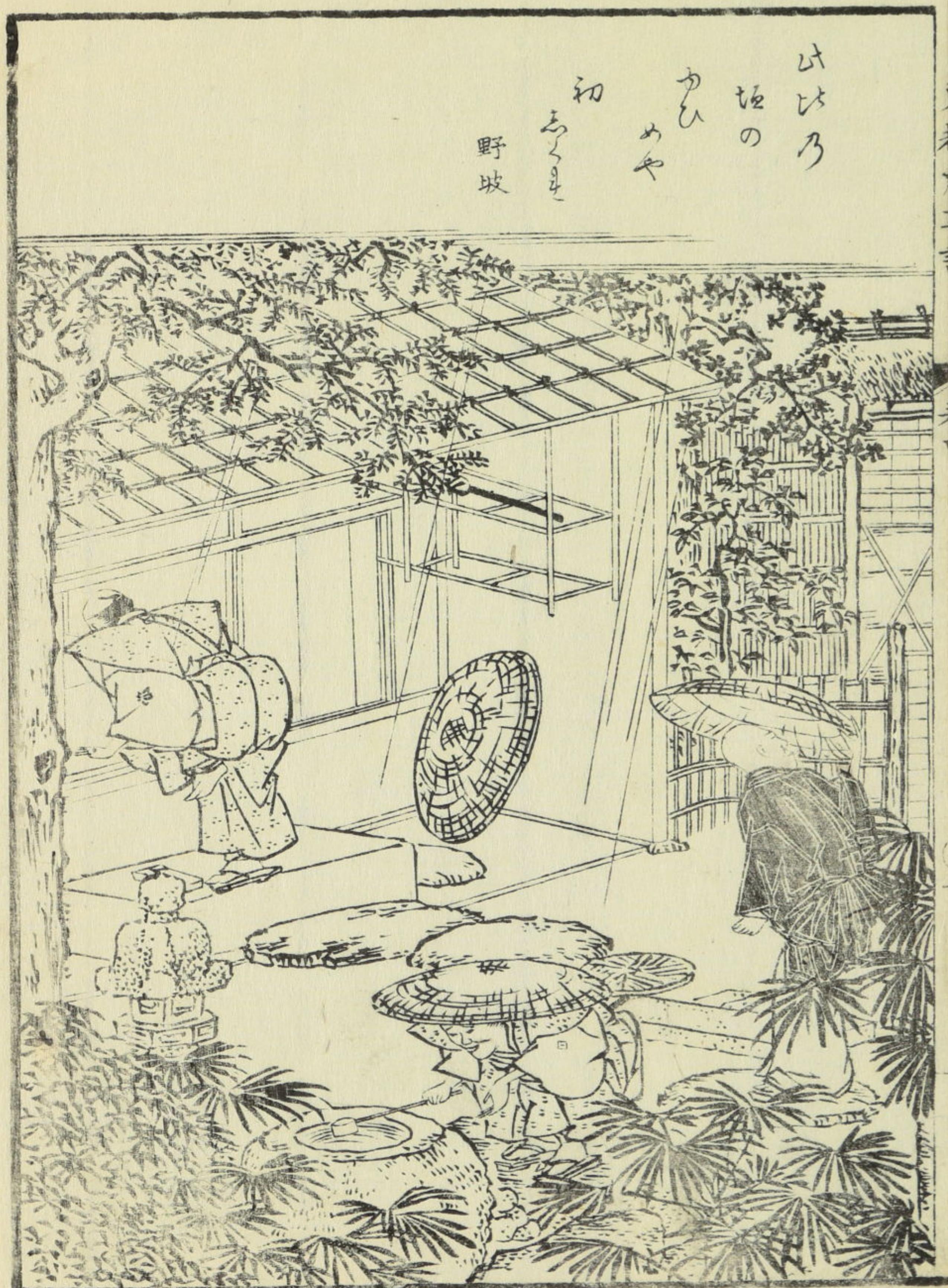
10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 JAPAN 30 20 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 20 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

江戸歳事記卷之四冬之部

十月



清江一曲抱村流  
烟雨蒼茫遠近浮  
風景有情東北望  
歸心無盡向南流



二月○東叡山開山忌開山慈眼大師清忌より修があり辰の刻清が塔に  
寺輦少て慈眼坐へりくらせる園山の院主想出はありて法華  
八講修行乃至教花あらり伶人音乐と奏一己の生刻小法會修らるゝ事と考ふれり  
ソト東叡釋集モ

今日文殊樓門山より登樓山より通用ハ五大师例奉節本坊へ延々  
初冬登東叡山文殊樓

春臺文集  
高樓架雲起登眺敞幽襟地湧千花塔山榮七寶林耳邊鳴墜葉目下  
過遊會波岸房陵近遙源渤海深捲簾空翠入倚檻早寒侵舉趾超二  
界遨魂遠五陰酒醒難再醉詩就欲開吟杳眇煙霞裏徒生不住心  
日○涉美幡隨玄院開山忌今時自修行開山智參と人白及和尚ハ正月八日入寂より今月  
よりナモ法會ノ行

六日○慈戶天滿宮御氣の宴○禪家諸も院達齋忌

六日○今日より十八日まで延津土宗寺院十日十夜法要執行はる悦  
念仏お祈りて寺請多し今月と十粒經解じよげと云十四日か八粒り余ありはる解解ふても法事と申す

増上寺十四日櫻林よりも出本而四向院源川本誓ち三處法住寺

南河川願行寺青山若光も真澤澤吉もたま佛事も念佛堂  
子往務也も行徳徳願也

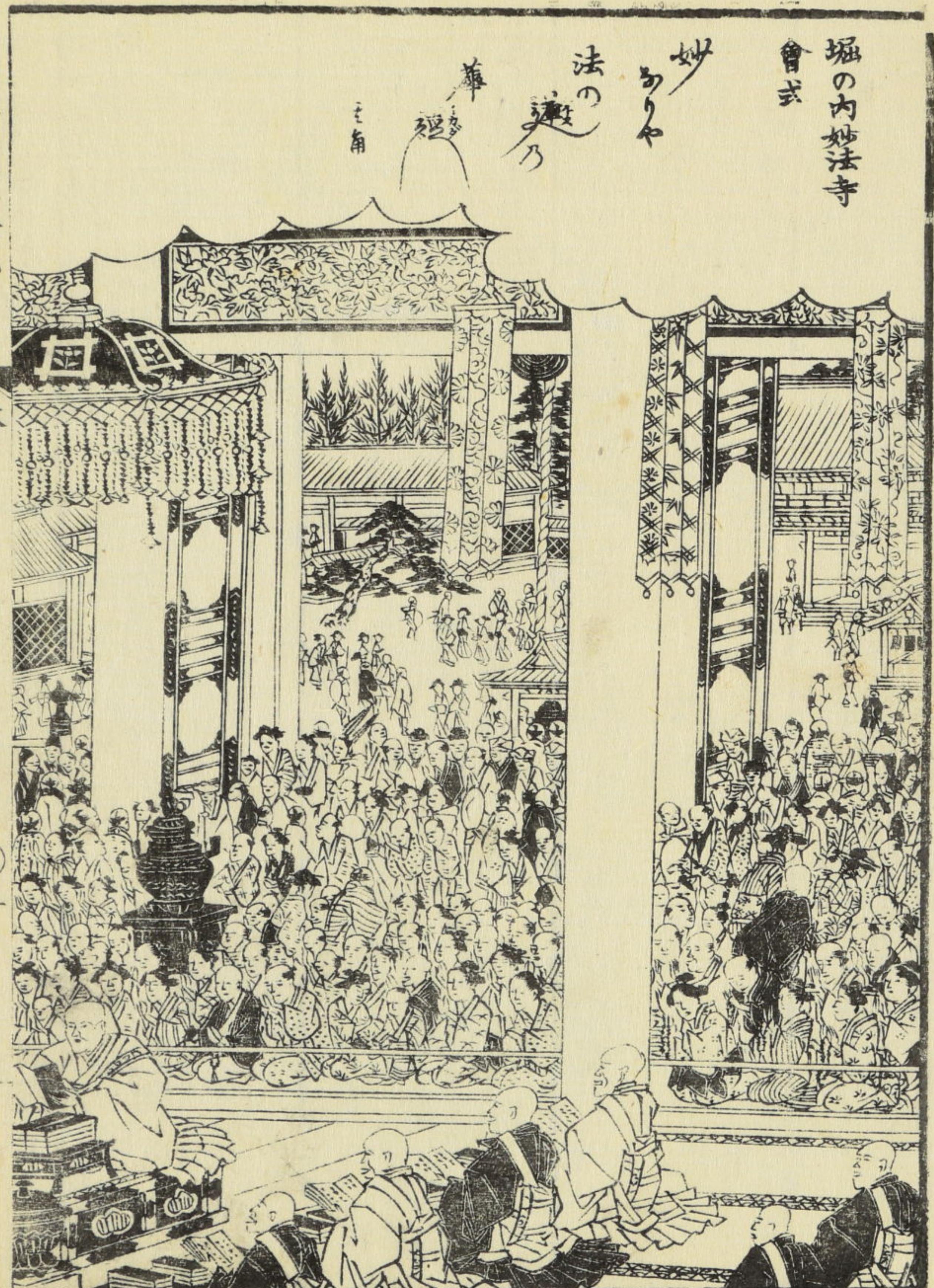
十四十夜法要のより向川女院の宮中みて始て行るその日も後花園院承享二年武將  
足利義教との執持併勢も平野貞經と息無く法名を蓮源く淨陀乃誓願  
少海く淨東終ち山主正極あるが如き天子  
の本尊の是差すゆては法令紙中無あり  
つゝは應四年小川解行もか開山釈尊祐崇上人初より應了て京師に入り新法令と  
淨土宗よて施行するを許され善食の光明る小ゆり始く行は是淨土宗の法門院あく  
修行するの路あり今も光明る中の十戒法令火淨土宗を主より法事も今ま  
○鞠町妙法寺淨陀經文詔十日自まで修行

○難司谷法明寺會式の花市 今日御ひよ七日八日小市立つ  
司菊鶴政きりはくへタリツル余満

を世の穢れにて世人事へ知らざり  
七日○油菜店どぶチヤウラン 長遠も今式ニ、日より修好友日和師 因帳  
○奥羽津喜も用ひ向頃上人の墨

今式今眼目  
○報恩會  
○雜司谷法師も今式證考  
日○法華宗寺院御影供法會

日〇法華宗寺院御影供法會　衆恩會。又今ま  
今日より十日まで修りあり。併はお午達カウより、御新作の持戒セラキリ自林園鑑カウ  
ゲ漏の詠詠れ式のみをもととソクヘキト來の法大師の忌と御新作とソク不珍き也。此  
ニエの反ノムレハ、ソクイシモイソクモトモ。併は御やまうひの字とテヘキテモ、ヒイシモ  
トイヘおちハ、無ムアリソアリ。とねモソクアリ。とのへそくモキリ。とソクアリ。法會の写一宇の  
も院松檀カウとウヤケテ造善と拂。ノ葛巖同と尋。うしも事清の輩、向未近出る在あるも



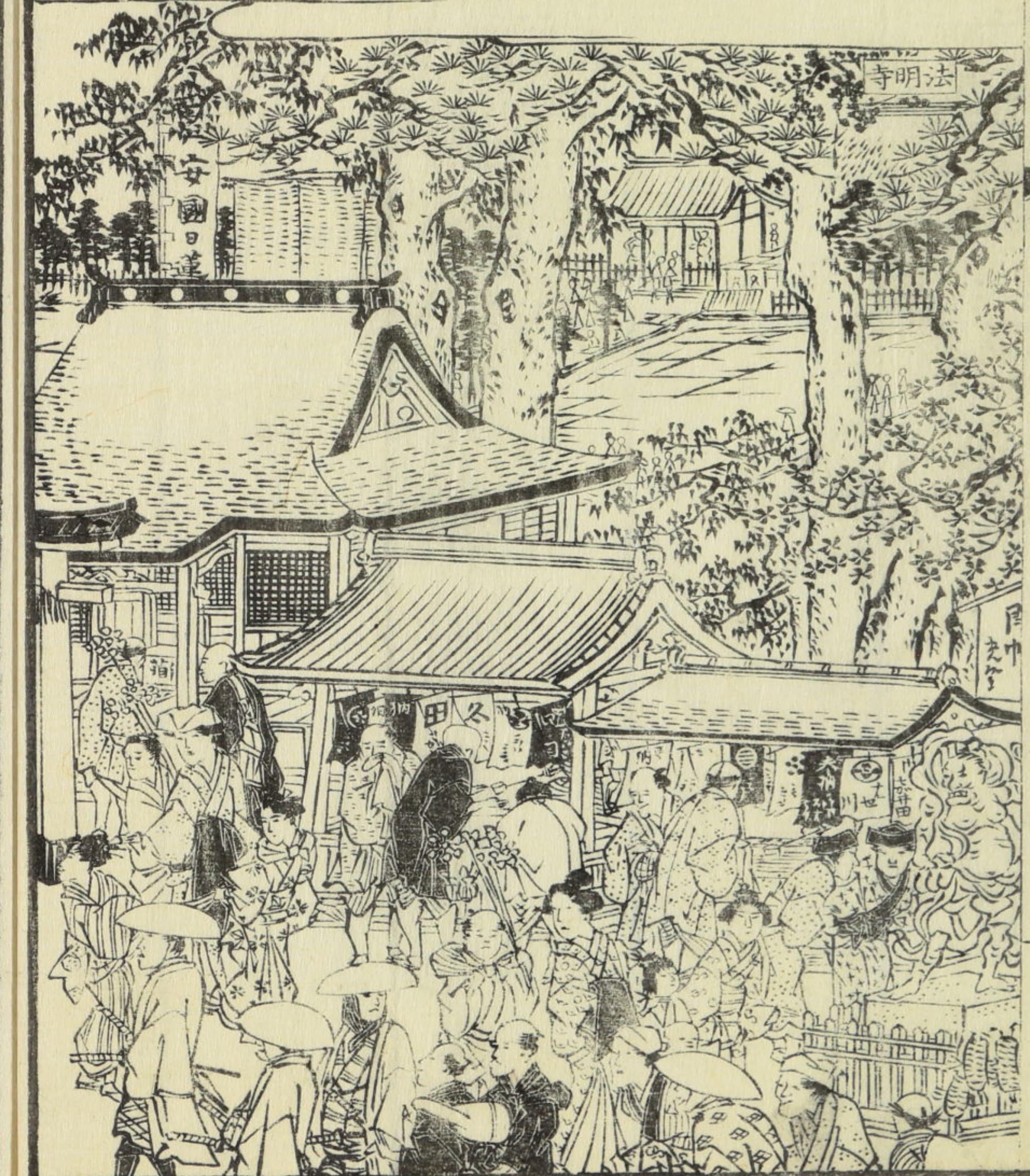
雜司谷法明寺  
會式詣

圖す所と  
鬼子母神の  
祠あ繁る作  
社より法門も  
二王門とまも  
の奉かり

蓮宮法會競  
呈奇傀儡場  
開機關惟僧  
侶不知閑悞  
在弄將祖業  
付兒嬉

柳灣

江戸  
名所記



谷中嶺玄寺

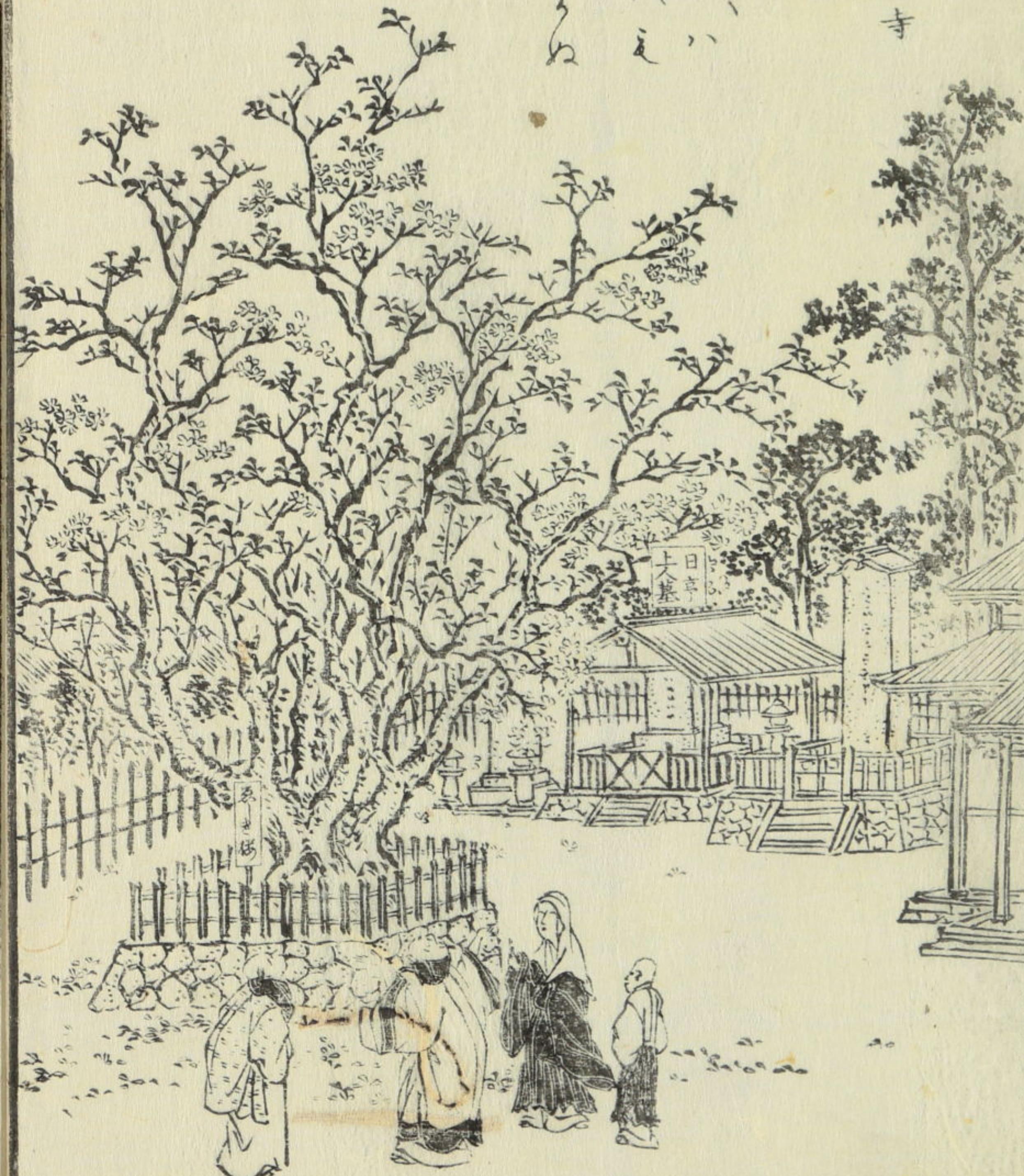
會式櫻

冬さく

神代文

さくら

宗祇



事の徒々會式と稱して祖師を供奉。客と遊ぶ祖師は假する所のみ珍よりる  
様と云ふ。候と云ふ事も珍と云ふ事も候。禮食膳の設膳より縁起ありと繫りられ。夏す  
候満くあまと伝ゆ。寺令漢尚白

雜司う谷法明寺 法會中兩帳あり。多木遜佐表水法會。齋主カリ十日。主

と多木遜佐也。家祖也。一代の祀よりて。多木遜佐造り。多木遜佐燒肉。多木遜佐  
生て廿二月。追陵人群集。一繁昌太。多木遜佐。鬼子母神。乃燒肉。ゆき草。柏。櫻。成  
ノ移。移密と停て。辟とす。む川。重の脇。表。藁。綱。工の角。玄。櫛。子。風。車。歩と云。產と云  
生。中主外飾り。ねと。かひと。院。観音院。玄淨院。蓮光院。吉淨院。知足院。支院。清立院。  
家城も十八日。多木會式修飾。始より。○今日同不鬼子母神更教あり。

壇の内妙法也。

會式中用帳あり。法會の次第のよと。

八日

麥當系

芳九日

妙經

一十九日

凌涌

近

十日

見葉船

一十九日

參金典

六

近

因津

三

乳

出

五右法末。如。多。咒。讚。雙。紳。伽。陀。妙。礼。音。樂。羅。陵。吉。淨。之。遠。教。花。商。經。法。花。八。緯。論。儀。讚。妙。經。  
経。榜。尼。品。言。題。因。紙。章。還。樂。漏。期。十三日。妙。典。八。近。正。年。三。寶。礼。普。樂。威。強。後。經。極。本。還。榜。喚。洞。後。  
別。讀。偈。密。塔。對。揚。趣。詳。音。樂。變。殿。獻。香。花。兒。童。訓。凌。御。力。經。禪。君。千。菩。質。咒。玄。題。因。紙。還。樂。奉。  
以上。

十日○湯島天満宮祭禮。別處見院。今日もあ社勤清の日なり。とのふ。九  
と。かづ。あく。候。と。御。石。の。ま。と。く。四。角。み。だ。ち。て。林。付。と。一。後。産。子。の。多。く。死。る。或。云  
あ。社。地。主。神。产。隱。の。作。な。れ。も。あり。と  
○虎。の。井。門。外。京。極。家。の。屋。安。今。異。羅。智。紀。も。外。而。えん。ひ。く。家。

○矢口村新田明神祭禮 別當  
○國惠金毘羅社祭禮 别當

○國惠金毘羅社祭禮 别當

○池上本門寺會式今日より十二月迄修約 十二日十三日兩廊あり  
本門說法あり十二月十四日二つあ荒蕪の布施あり、家主ハ常社と人入寂あり、是故  
ナシテ大伽藍なり今用經師四支名あり○法事酒食十帖法會一日より修約  
十二日○法華宗寺新供今明日修約のち院源川淨寺 帳 谷中

瑞林寺 ト仲佈物あり

本不法恩寺 帳 青山仙壽院 帳

丸山本妙寺

帳 青山仙壽院 帳

丸山本妙寺

下總吉写弘法也 留ナリ美酒寺、外谷牛込の辺ハヨミノ法事院のち  
近ハ法花院、アリ會式ある。寺中天王堂感應たり。時中古  
寺モモカニ

○東京表町奉之助經師更衣

○十八日迄總門中山妙法華經も會式修約 仁府兵士を鄙より請人  
最行持法輪の役場あり

○十九日新祐院也

○品川妙法院も經師開帳○丸山淨空も經師約の内開帳  
○太陽本傳も會式十日まで修約

○法事と本席本遠も經師開帳○牛込系寺新法經師会(高田亮翁院師)あり

○赤坂今井台經師會式○小梅村左衆も經師會式

○川越宗室中傾すも小様ありて十月少佐修くあは前も會式こうとふ寄り甲州  
御殿山の隠れ所もあり、お近二十日毎日亭上人自持も而やうて家慶工癸酉年十一月廿二日  
上人二十面忌の別持も営くとよ今ふりて例年十月花まき春めかりて經師さくと  
又余本より平師こうともソラ油と本つもあら是み坐す。紀行ありてひひ花房こと  
急すかうづけ○おねじり二座芝居役者入替りの編号臺ありく

○上宮○源川靈巖も十夜法要

○同源川天も十夜今秋より通教あり

○十日法會のち院(六日の件)十八日後教も今秋より通教あり○本不圓院放生會

○小柄原熊野權現會式 別當

○

○二座芝居舞納(マイナツ) お坐と立松坐とくの大抵連日中向からまよひて中座の役者

○十六日○今朝日難司と谷感應も會式今日通教十七日音樂界儀事會後法あり

○十七日○文地村秋葉桂現八九枚大獲摩他修

○三芝居ちゆ一初又ちや一初も寄初も以て坐て坐て入替り俳優と相打て

小令にて酒宴試合。経云役者恵方高ひて経云の名題とトモニモひの役者役割と

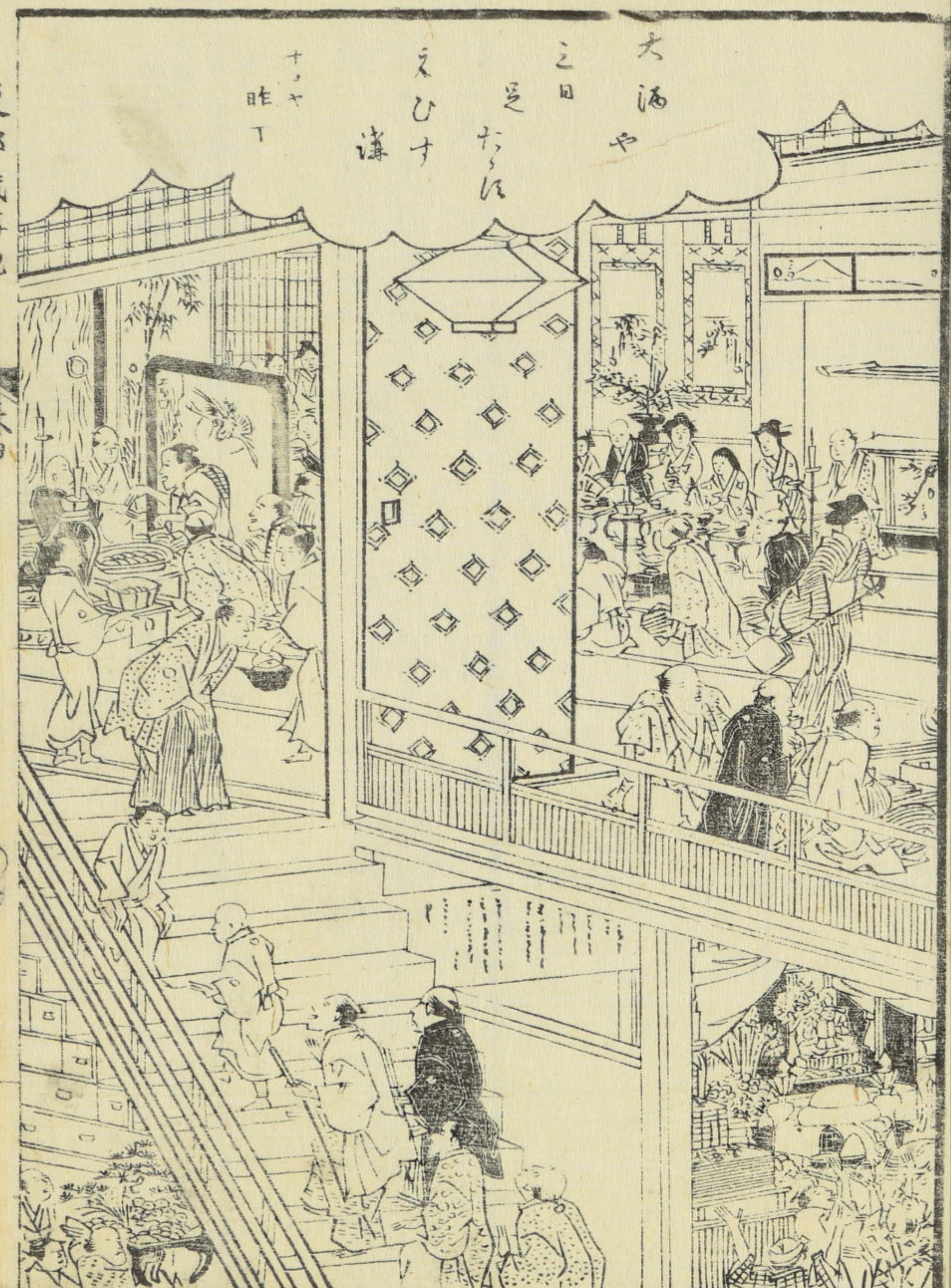
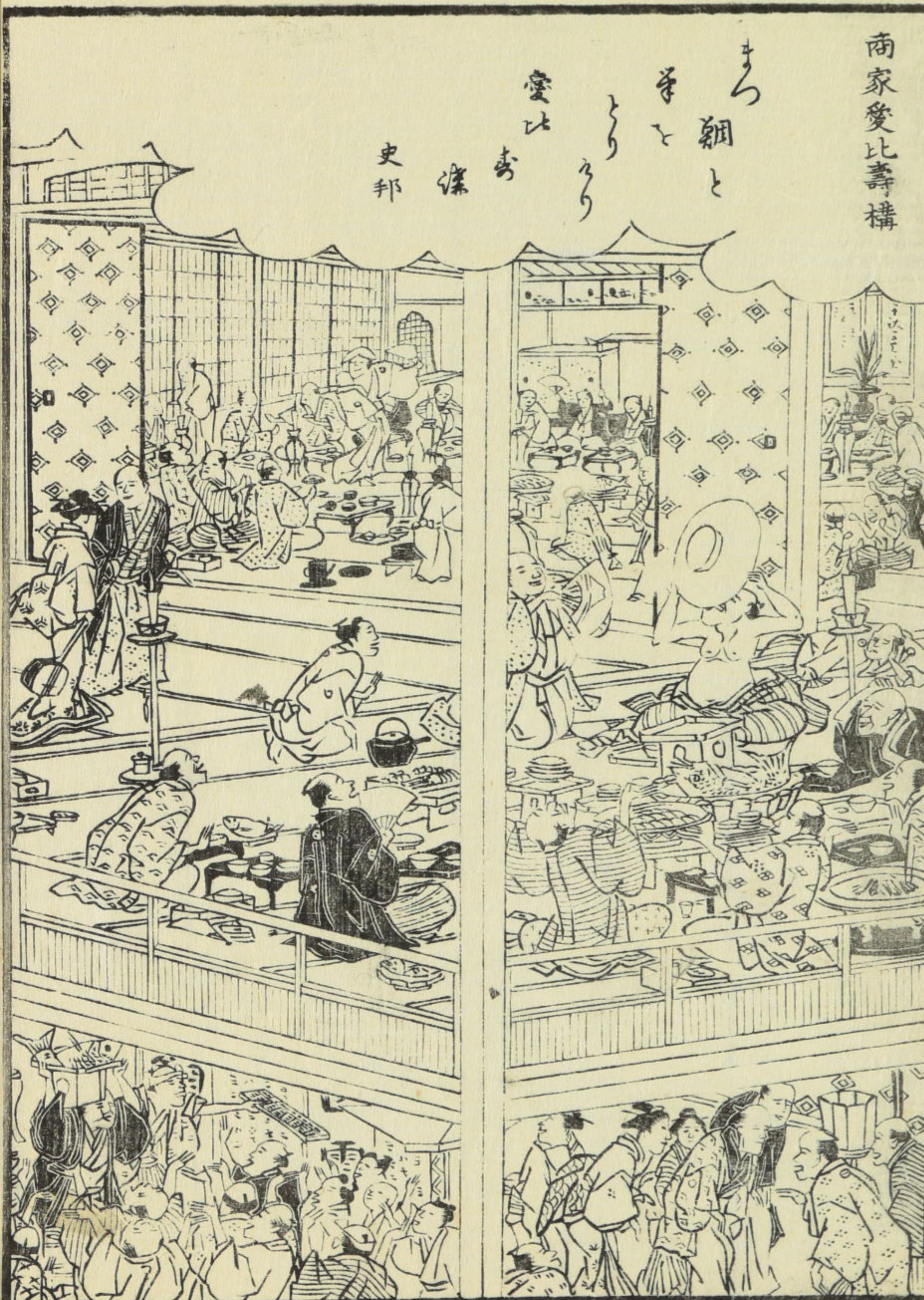
後も後程云役者坐て文具の幕と繋す。又難司と桂現と桂現例ありトモニ又通用の本末

大坂より入りの役者、並比ふ名をもと坐すと云數年の娘ひと經のつくす而う向く

十九日○今秋大作る町臺下同通旅館町小商都夷洋の布施の如一

○富田亮翁院七面文魁同講開帳廿日祝法

商家愛比壽構



廿日○高家會比季様の好

○涉まちの玄福院境内會は善哉

○二種芝居入替後者の段前板と如くは貴板小大中宵経法事の彩色より  
前後者又互へ換りも次第ありて是と申ふと云

廿二日○上野御本坊 大師堂は慈惠大師 謐号を掛て以法事而之  
園山墓地はて法事禮行あり法人津とある。

廿三日○難月谷室城ち急法

廿四日○麻布善徳ち報恩講と法事廿八日迄修り 狂言上人報恩講のより  
事ありて御派の門徒日毎不講をあち付室とおせしむ又難月園山像開處あり

廿八日○二種芝居大名題前板と如く 中村彦ふくハ桂英社云の人形と仕切場

叟の形と拂ふあり○今日を法恩ち摩利支多祭

晦日○應戸作衣祭 間の時作燒を滅一火一炮と乞

晦日○應戸作衣祭 そよ作衣と新る日月ふかゆ

○二芝居の町内茶屋飾めあり 今日より事間起見世様の始まると御く  
造りあと拂り移よられハ焼焰と煙を具更連よりハ引幕の懸拂一送り酒持  
瓶桶茶葉儀りいあるまくゆけよとく種めトメテキモトモハ娘へあはせひよ  
射程云々の書附書類々に御戸中あ居とあらそひと買ひとじ萬能トヨタ山入の  
家へ配る



○勧進相費 春冬ニ度もやうと十月下旬より始る毎六十日の宮参行めり又爲乃ま  
スルテノモニキ  
白膠木 ○ 立冬より 潤比の洲 之因シム坂の辺 楓ふ先づもて紅葉  
六七日間 一時乃往觀く  
工風 ○ 立冬より七八日後 淀水坐の木ノ下に於て之を観  
モニキ

紅橋日向以北 索膚已船車板上 谷中天王寺海の川相河村現  
境内夙奈 岩門東海外よりハギ 有因穴八幡宮境内多羅護玉也 大塚渡アカハラ 有  
山内大久保通向天満宮境内 角筈十二石燈籠現社辺山のわとりそ  
まゑ所まゑ所

因思祐天寺塔上寺并天池邊

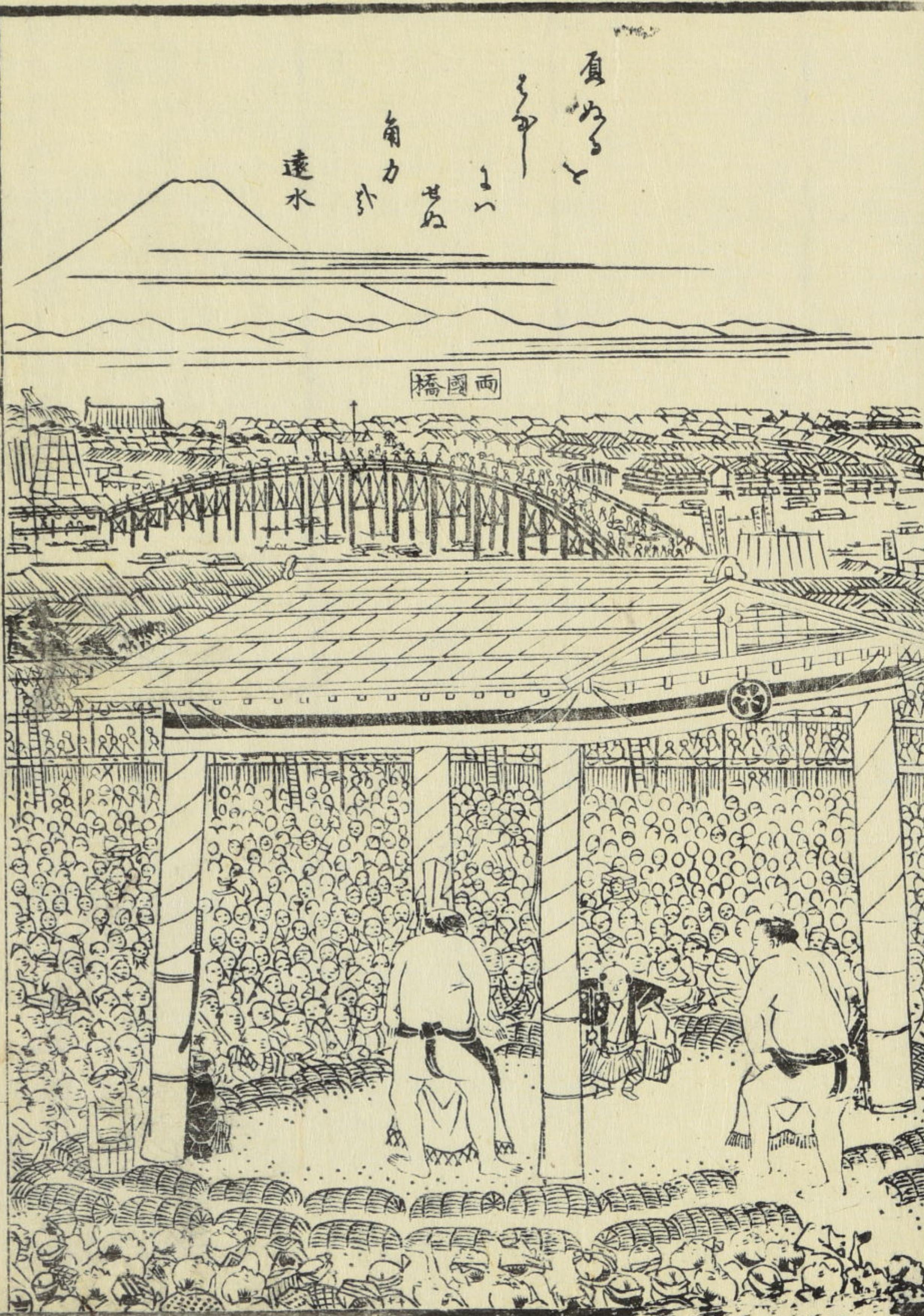
○ あらより 般別海晏も 游が多一中年の楓樹の古木ふして度中まき越  
あり 紅葉の京都下の達人あよ集ふ津戸が子とあるの紅葉と祀せらるゝより蛇猿紅葉  
か葉紅葉花蟹葉浦葉紅葉並柳紅葉櫻葉紅葉あら名あり

○ 同十六日 同道游泉寺 を奉じ下山山塊もくすくへ楓樹の森ふして野下のま  
月夜より 同道游泉寺 や一 紗遊貴の格比かりもほひやちとのそりへあ  
まけゆと知ゆる程姫ひ一中古の儀ちよ思えられとあはれ枯木名木と考ぐ  
○ 同愚山人坂古へより楓の名木すて中古ニタカラ屋と云今ハ枝く名の多く残せり  
○ あはれ平素かくて寄りあはれ遊達く蟹葉い別て珍ふよりも迷き方ありと  
○ あはれの相ハ法も本來のあよびり今ハ古事とより形のみ存せりあの楓葉の角より脚を

とてまことに外の机よ葉をうめむすりへ一葉の楓ともいふよすうう  
○深井桜木屋 伊左衛  
カヘテ もひ楓ともあひ化二十種後前ひ二十種  
もひ楓ともあひ化二十種後前ひ二十種  
もひ楓ともあひ化二十種後前ひ二十種  
くもと出で洋かり 名目  
墨十 案の事よりもの品、貞享元禄の以ハハトニ十二  
のせうかどて千數十種あるは後実生のうきり歩て大くのふうまく千數のよつて  
とておほれと名付しよ世とふちやうりて遊びとかうれ多くよ喜ぶ生葉まくをより盛り  
来るうちりみちらむとひ考ふよりまくとて来るりの集桂く百種よそぞりとくら  
○盆栽ホテンの事、木の用意よねり解事よくりて、お出で大トモて山丹花生ありと茉莉蘿後霸マツリ  
王樹断麒麟角の類をとれりとれりとれりとれりとれりとれりとれりとれりとれりと  
もう穴ぐらあらり種類小よりて差別あべーむう咲の後あ葉柄ハ九月の事より  
く

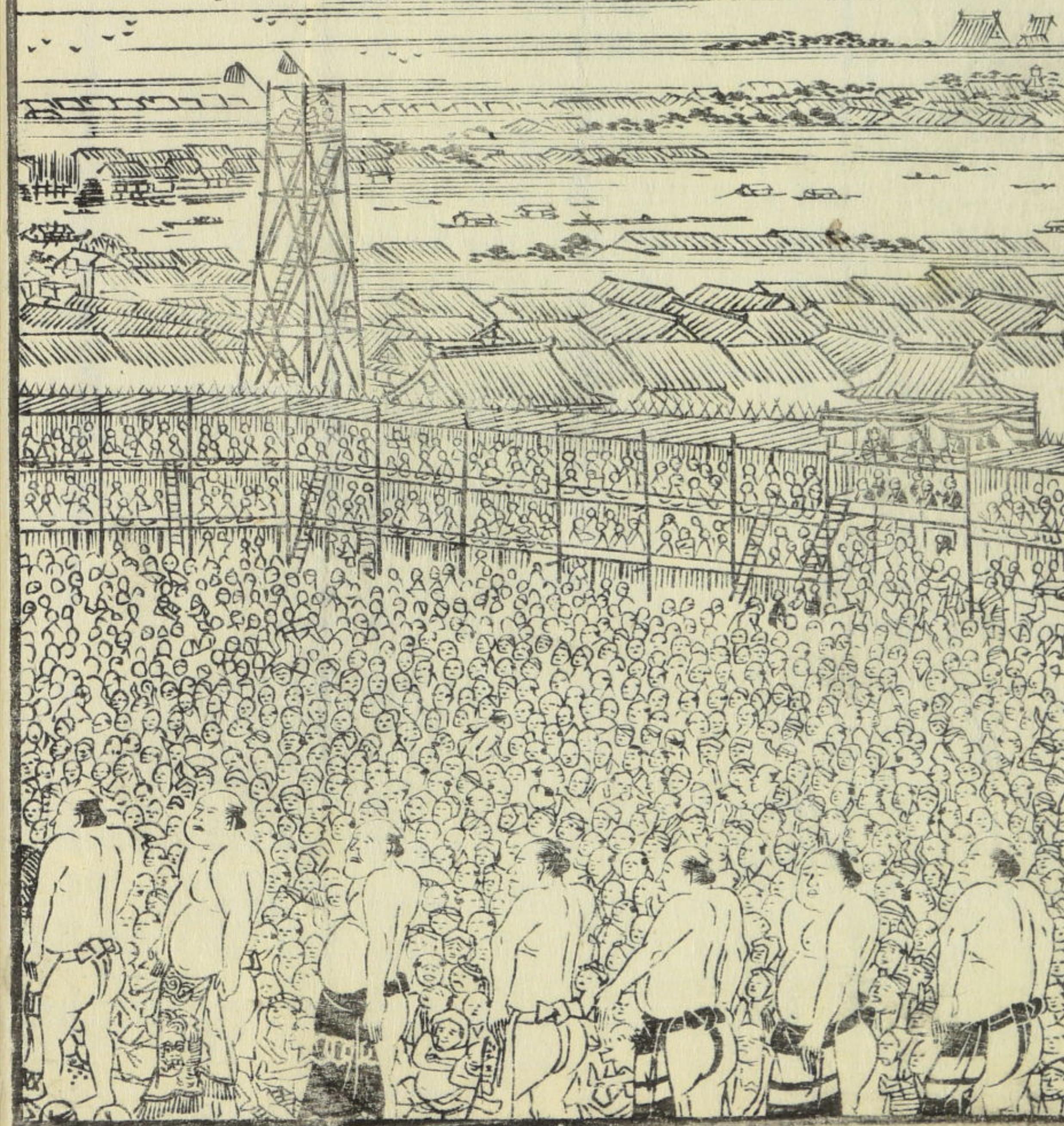
十一

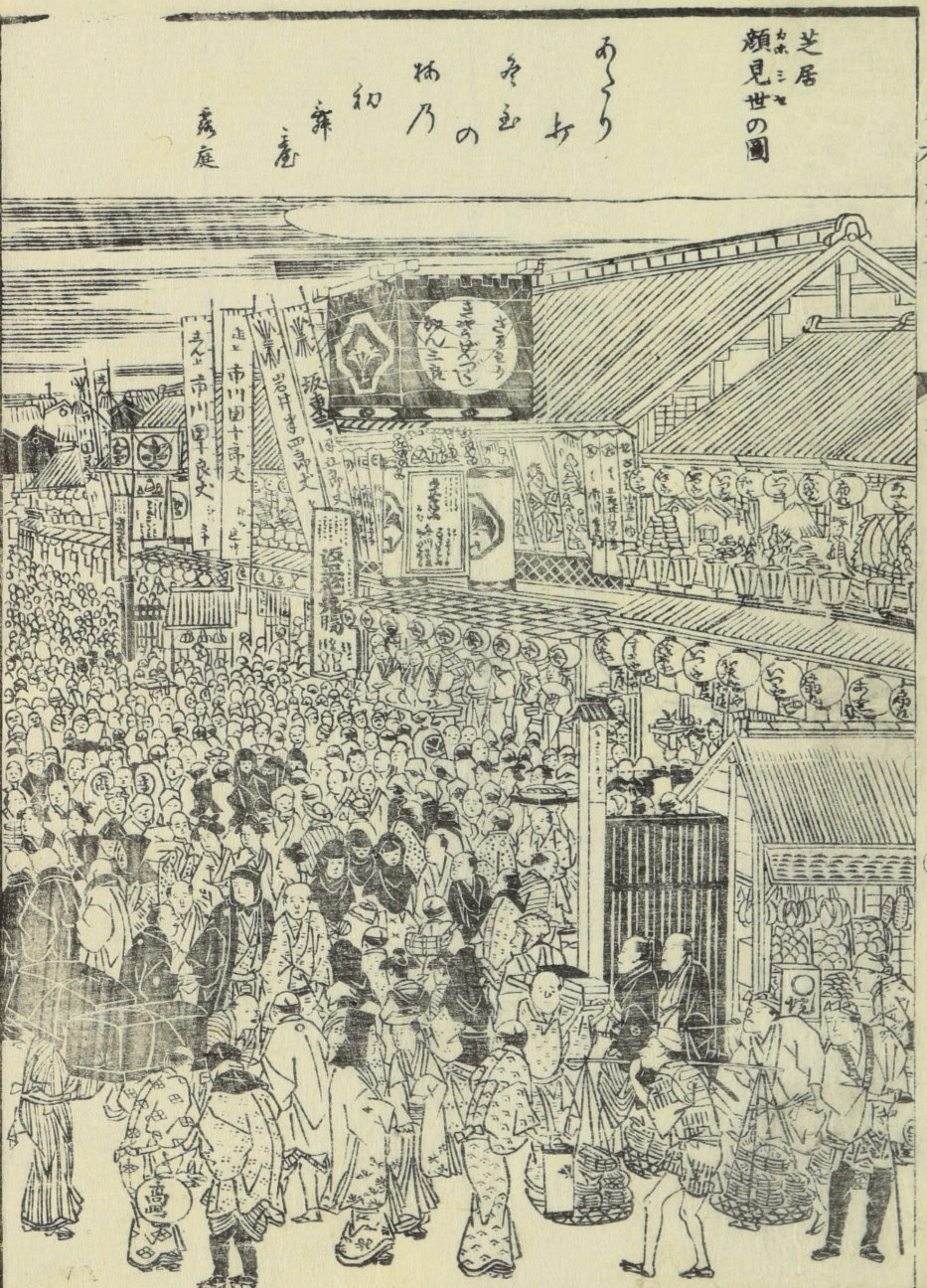
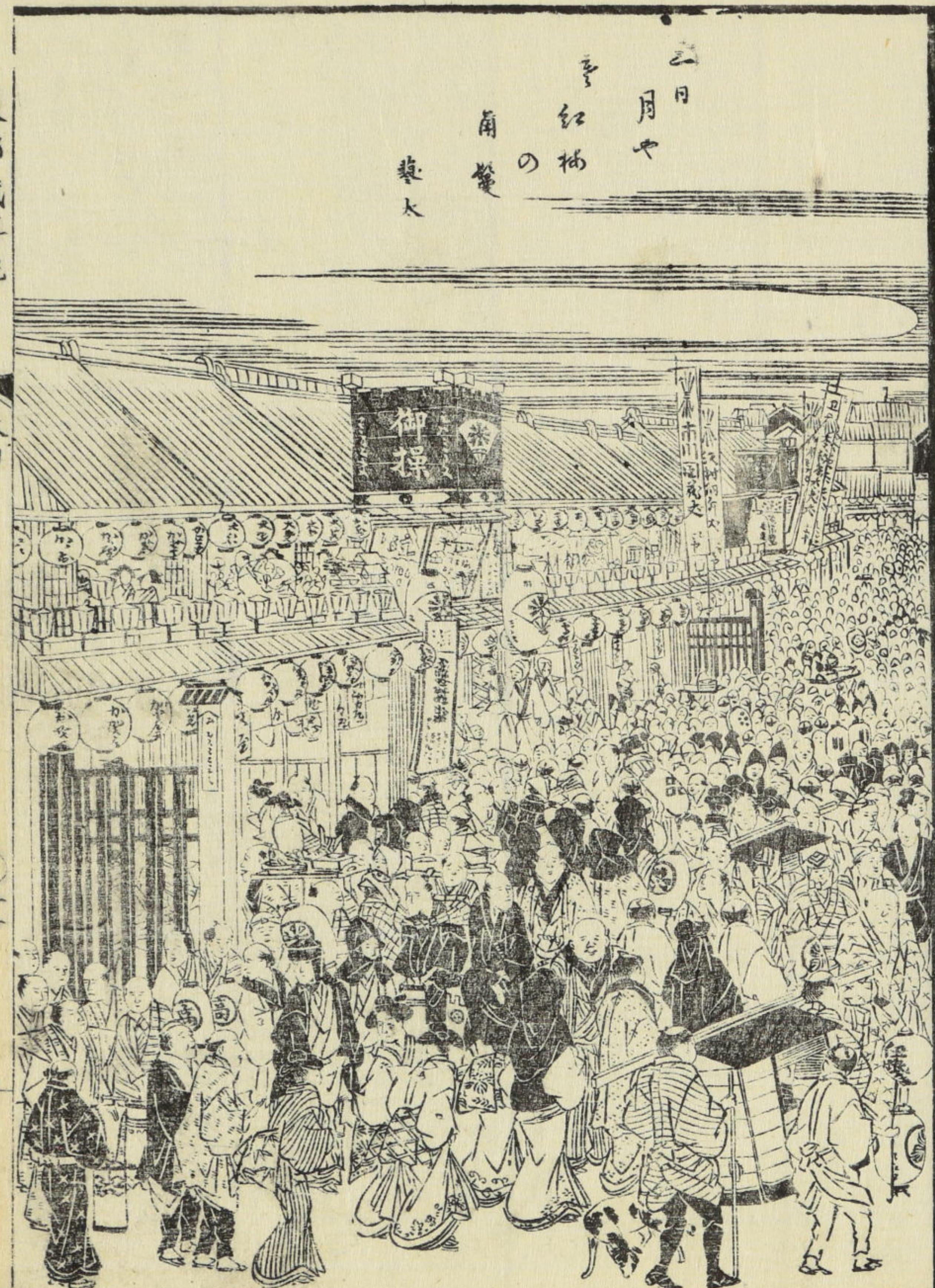
カホミセ  
嗣日○之度芝張額見粗言無乃  
時より左支元義を支吉例の之番叟と効む續りて  
幕前の人々と金をうるぬ七時よりあはれ云粗粗乞色子を取大勢のと浦り繰りて後野  
村云款見せの所りより故て芝居少あつうよりはいと毎日ふ全くく十月晦日ふ事と経る  
十一月初日とみて元のものとあせり「粗見せや一歳を鼓二齋翁老翁」  
うみ法見翁牡谷 五元集 韶江を市川と外とまどて「うみ法見翁おもねりともち 其角  
引ひきせや方十町ハ正月氣魚路「かねえ努やあはれ二十すうちの春遊女已人  
○今日より四日まで玉子桂圓法花八講修行



勧進  
相撲

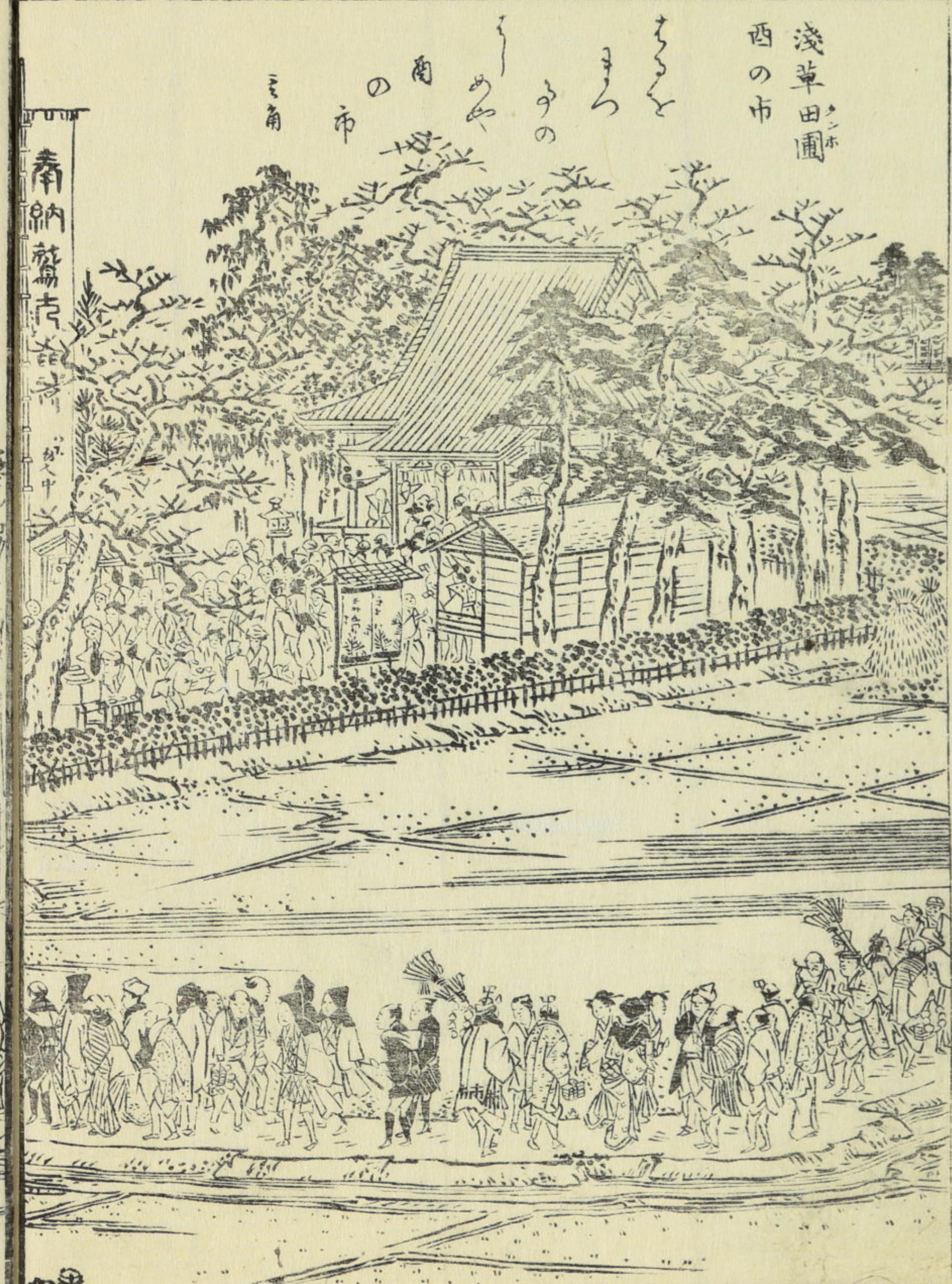
角紙人号五丁力。  
每逢人必誇其贏。  
場人云若子言每。  
場似取全勝，子雖。  
强有力偶無誤輸。  
平曰若我輸場有。  
贏者誇人豈待吾。  
言乎







淺草田園  
西の市



春納鷺古明神



四月

○谷中安五郎某人以上不向の事

五月○牛込三十人町を泉も毎日集

八月○鞆祭フイガミツル 稲荷とまつりの祭りより世よ火燒カナガと云ふ紙面シマツル拂師ハラシ白銀細工シルバーワーク余吹移す後アフタ稻荷カナガとまつりの祭りより世よ火燒カナガと云ふ紙面シマツル拂師ハラシ白銀細工シルバーワーク余吹○谷中金巣カニヤも今ふ槿垣カツラ架ササシすりやほくえ下風○水道橋ミズザブ稲荷カナガちひとき

七日八日結ち奉れされと出で今ね

客相ゲタシマツル十二度水車ミズカミ回り

十二日○二芝居春狂言の世界あり頗見せむ世界小全

十六日○嬰兒宮ミヤマヰリ 究至カミミオキ 男女ニキハ 褒著ハカラキ 男子カキ 常解カキヒトキ 女子カキヒトキ 七方セヒチ 等の祝ひ入り高月始カツカツのひより下旬迄但シテ一十八日ヒカルとて是の鼻ヒカルよりも限ヒカル少应ヒカルして客ある  
たゞ衣被カツカツととくの人ヒカル唐去神カツカツへ詣ヒカル、親戚カツカツの多くとてりその形體カツカツ如已カツカツもむくへて宴カツカツ  
諸カツカツ女児カツカツの後カツカツよ向簪カツカツ又大手カツカツきづけと馬カツカツ字カツカツも絵カツカツと本廣カツカツね持カツカツの船カツカツと  
み衫カツカツのめ引カツカツとて肺カツカツり結カツカツしらざカツカツと生去神カツカツへ詣カツカツるよカツカツ江戸カツカツ沙カツカツふすよりはカツカツを市  
市中カツカツゆかカツカツ。永田カツカツ弓カツカツ山カツカツ主官カツカツ 国當場町カツカツ日禮カツカツ和カツカツ神カツカツ御カツカツ社カツカツ其神カツカツ御カツカツ室カツカツ海カツカツ内カツカツ八幡カツカツ主  
市長カツカツ公カツカツさんカツカツ赤坂カツカツ氷川カツカツ社カツカツ湯カツカツ清カツカツ志カツカツ定カツカツ油カツカツ東カツカツ三社カツカツ槿カツカツ坂カツカツおもて渡カツカツは傳カツカツ也カツカツ今日神カツカツ事カツカツありて  
娘カツカツより槿カツカツ坂カツカツ娘カツカツの子カツカツあり袴カツカツうなまカツカツ角カツカツ十六日○南本正苗場町林家カツカツ槿垣カツカツ祭カツカツ走カツカツ別カツカツ秋葉山カツカツの旅布カツカツ切りカツカツ別カツカツ異カツカツ立店カツカツと  
のまよはカツカツ○高月八石カツカツ上秋葉カツカツ祭カツカツ走カツカツ別カツカツ異カツカツ立店カツカツと

十七日○亥未秋氣清見月今明日晴乃

橋閣と今ア家御用のあはれ  
とあらゆる處へまつた

○二本接處急院八天終社事九度并少行

廿二日○一向宗の院報恩講女八日まで経過  
法會と深くおかりせんかうと  
ひも又おもり月とよせ八日まで讀經說法ありて  
今は晴々と世俗おうう日和とあ  
東本願寺  
事務のたま時量のむちゆく東本のびよりああ群集  
よせて本堂少講より文よ開けり法会中よめやがて陸底トキヒ  
時とすむ一宗の老矣む清や油とあつてあつたよ衣被と酒とを差す男、扇衣の  
中草うたとお女ハ高りけり黒き陰中とくと毛と絆よつのうくとよく法會のち院  
終りありちよ一二と記せんまも事務多し

下谷唯念寺 湖東の神内町唯念

同上

小説  
世

女可の内事小主の本の市もちの辰

廿六日○龜戸天満宮神社の祭事あり  
オニシヤキ

○湯沸雲寺縁起文瀧頂修於今明日  
附  
羅々掛け紺と白との如き

ひりて頭と持て、お眼をむきひて投げ、む大日如来をあらはれ、大日如来の  
ゆきうちわは紫朱を改め、もあをと換へ、余諸事もあらへにあらとさうけたりとあ  
江府の旅人姜よを鄙より詠ある人声

○大師粥 大師もとより凡俗の教と伝すりては大師の本流ゆうさう  
源去法を一念宗皆天をより守り奉る事無くもまことに

○田代義章元文元は武蔵守也名考開拓此處の山の裏のほうに業平の居女と云ふ者ありとて女のもとよりあこがり一て其名をと清一と云ふ。江戸勢力

かくして武藏野の多くは、寓てすてほん陽川がとくをめど、諸の事にて  
あせあまつたけふやうやうんされば今もさへわゝそとく十一月秋の日より

首の筋のくびは七日のもちみどりのくも  
薄ふくせねえんとあどりよのとくらや

○南木川子骨荒井祭後別處泊きも廿七日より修業  
度摩修あり三月の如

○今日より後季假物の米山翁は世より清は云せまくうち、篠井本觀もその近隣の婆と呼

やうのうを縁三年廻船の人倫社會は漸小範乗船、若歌にあ  
ゆきを乗じてゆふくらじのぬとえ手の経ますゆうゆく達りうるよ  
〔節季と花の歌が出て、同種ともいひ可  
海日○山茶本店も然谷の脣屬を  
ケンザクマツリ 十二月朔日より少藤の

東都歲事記

卷四

東本願寺  
報恩講圖

三槐集

もゆりかな

却経

教説

むし

通村脚

もし

教説

もし

教説

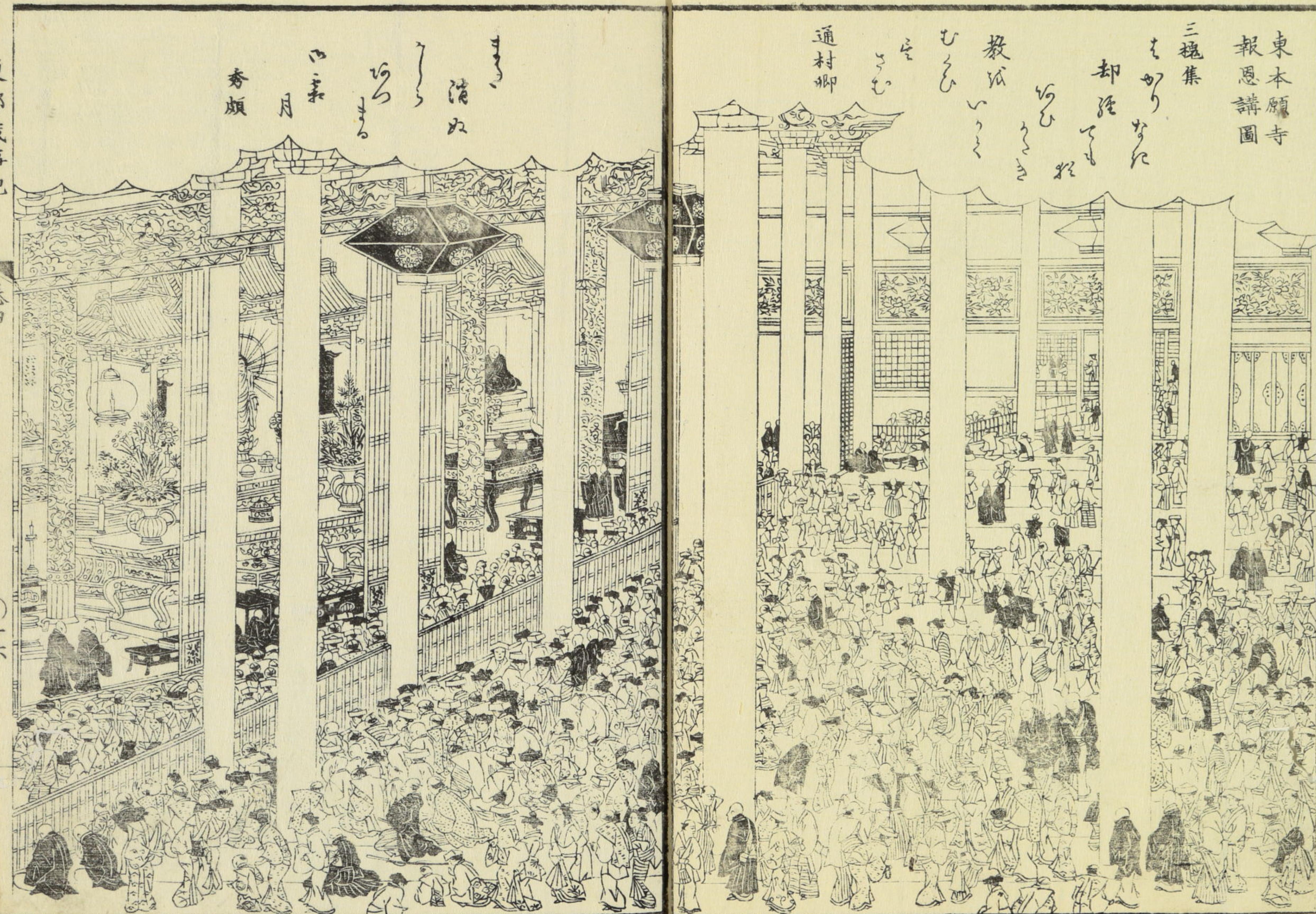
もし

消火

もし

秀頗

月



物累

日不定○新酒 ものへ九月から秋を手渡すやうに十月初より今と正月  
。危うき。か生。灘目。大石。高木。木屋町勢川濱別屋町之間あはれ、より新酒  
のお渡し、積送り、下川沖よ若も子母どもて、因、おのの官邸へ報し、因、御意より、ちまくま  
ー生を率ひて、是と激おこし、新酒製造の浜間町邊の酒屋へ積あり、修方へ運送を蟻島にそん  
方な。『喧嘩』してすよ、のやまと新酒引、百丈シライチ或書ふ云、江戸表の白莫ハモる。へ尾州名古屋浦の白莫ハモり、やなりよせまく、  
のすとおくると多くとり、其の便よ経て、納め、多々、よひ又因書ふ或人云春の末つとも白莫  
の緒もち少々て、堀切て、まほへ、波のうり、引す、藏場へ埋と  
くもとを埋ひく、表おのづら、至、桑わとうひ出で、子子ホウズの大きさに、ちりとり、漬ゆも、  
白莫のやりと、か一たま時その因、と解く、あらえ元より、多々、生す。かり、江戸表の白莫、まの法より生一粒、うと、ひりは、泡、底ま  
せられると、豆の如也、また、あに、茶く、萬月より、春よ、からまて、毎朝、細汗宮を綱と、茶を白莫を  
しも、簾火を、初春、ハ浦、少、折りて、二月、近い、よる。『あら莫』よ、ひある、表、うみ、かれ芭蕉  
いきり消て、あらね、おほ細莫シカヒホリ。全琴「白莫や、あら、細莫」、御ま、独候  
○幽、月も、うより、正春の、る、小兒紙、表と、いひて、戲と、ほ、宣示の方、あひたことと、

奇雲○隅田川堤 三園 長余の辺 美濃 美ちと よ野  
不思池 湯源庵 神園社 清葉のお云を 日暮里旅訪社邊  
引馬澤坐と お見えらとより 道灌山 花多<sup>アスカ</sup>  
赤坂涌池 寂寂山<sup>ヨー</sup> 向不動境内 牛込御宿  
眺まむ ヤクイ 八景坂 信濃ややざん坂とり木井と荒蕪の  
初音寺塔よきわく又あきよ 妻毛尾「初めにやられうまくとも一つお天てはまく  
吉原「いきらふよろこびとくらみとくらみまでまく  
○豈れどもく市街く達磨布袋を余色での振り物とみじ又童子の戯ふ猿<sup>アラギ</sup>に  
手も○春日末より暁月始ひまく 深川湖邊 今戸鴨場辺 沢門浦邊を移すと

十二同

朝日○乙子朝日とて諸人膳を製り候  
モトテナシヤ一時の写真やあく尠自  
と悉くうそへありし事と終焉をかへとす  
又行漫帳ともりよお出ば紀の森ともひづけ日膳を食くハシ難か  
ふたりて或がちもうちのうちり交代の初浦と安金と行らまもく海かへと船を御取  
の家ゆてハトリヨリまた行つたり

○今日ようう涉事本清の懸、若松山社下りすれど山は九月廿二日の事下にあり

節分 立春の  
○今朝も早朝の家ゆて燉豆と散大戦弱のじと戸外ふ挿下と  
至とまく男と女ととよ今朝の豆と燉豆て初雷の日令ぬ是と被へてギト。かひと  
又今朝ひり豆と已う多の貞ふ一ツ多く數くと是と被へ世後今朝を年越と

東都歲事記

卷四



龜戸天満宮

道  
徳

迎  
卷之三

鬼  
八

۲۷۰

卷之三

三

三

三  
舊

○鬼戸天満宮延縫の神事  
つき社あよ、お坐り巫歩く同斧一  
退くおそ高社の神すハ疏あ本寧え  
ヤシニシサイ奉士のスミモ

鹿の角、竹箸の櫛、と大きめの奉手、双角型の馬赤  
の二色小ねじ。前者は、徳川家康の所持品で、常  
松にて鬼子母神を余る人乃西半多枝にて進む  
府の例よりなり。一ノ三事  
うへて度外塲と云ふ修洞、と云ひ分野あり。修洞  
はあれば、後や松院様、勅筆といひゆふ

○紳田社渡神社 安のれと山  
○難司谷鬼子母神堂 追 コヒト  
の穴よりお出はる方の男女あれと於

ちと降き又、疫病と辟てとぞあつた  
○御宿妙見宮星祭 ○

○清和天皇八幡宮神事 ○後醍醐天皇

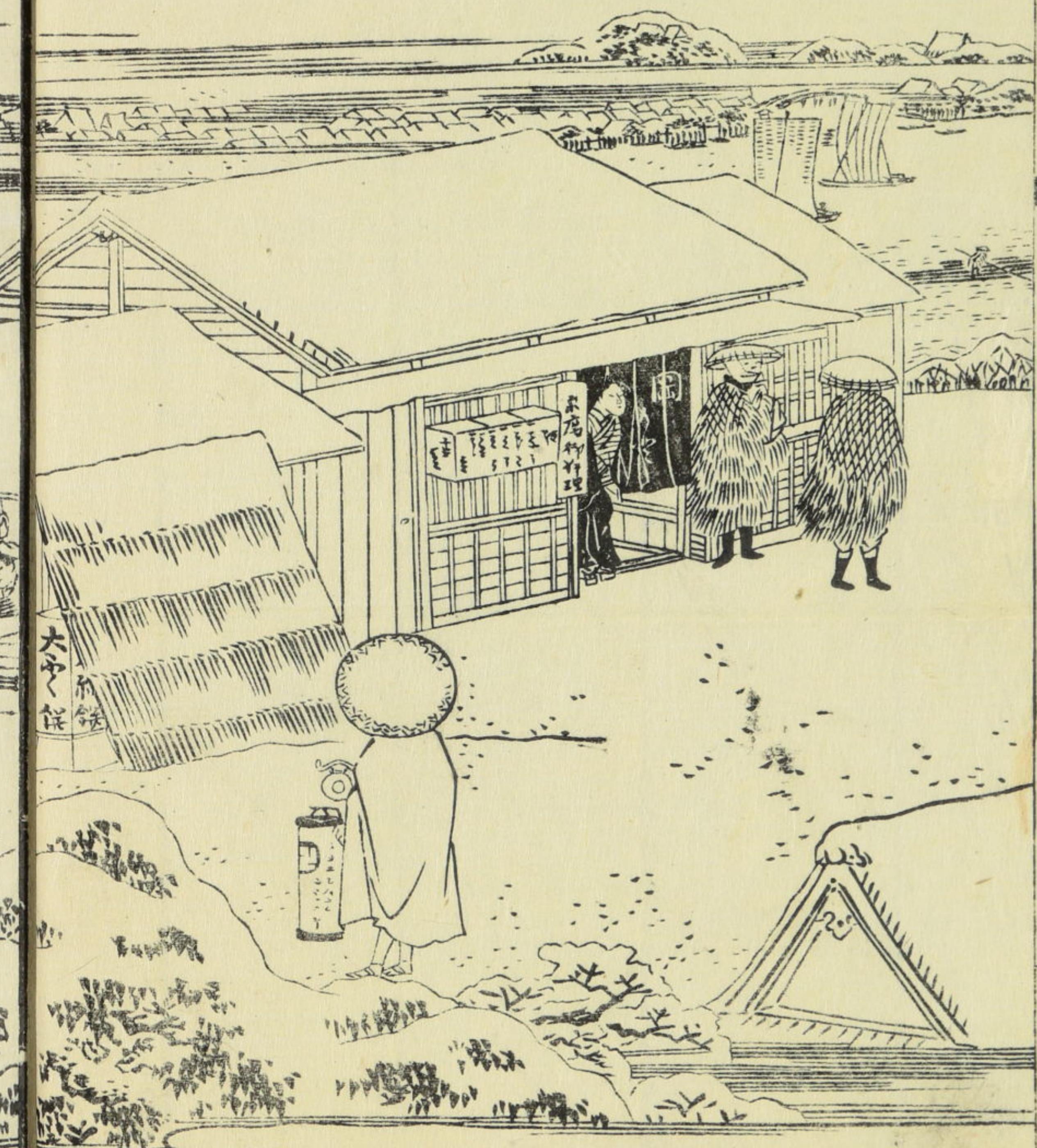
○佛系奇觀膏節分拿

あまふむきりてぬくに徳のよしと  
申の刻み詠ふみれ小節もとやう

平產所りと又立奉れども如  
○高輪安泰高の極の津波より幸  
○今朝已公少事了已之久光深

隅田川  
者雪

澄江風雪夜  
槳舟似飛自  
罷々一葉雙  
是仙家酒偏  
醉無人能道  
割溪歸  
徂徠



家集  
されう又  
船立  
中之江  
源也ん  
角田  
初春の  
落葉



卷之三

さてせよの豆とまく写し二時の程の跡書きばかり文化より以來ハ冬を除船正月の  
毛紙每小束も。○太林東山

八日○正月事終め 家へ範圓説と竿の生よ付て原よ出る  
二月八日のもと又今月とす酒と二月八日とす、可御くらうよ、愚庵子

大金を既もとてうなと申古よりもとくと申へ事り、ふや芭蕉庵ふと申ふ哉よその  
向よ一函やお預の物をす納め歸れ。國代も書てあまうりを納史邦

○は月差師の絶日を待む者少一候は月詰れハ病患あらまとモ極とあらず  
キヨラシ  
キの

○之國は鹽賣事極めて重申中也。一刻

大藏の清條公の倒ハ寛永十七年庚辰十二  
月十三日也歸り——由あ枝の冊子よこそく

家内は様行と金をすくと江戸引出も二年す、行と金をひきとり、支拂ふるも  
○浦酒七段集、向小文庫 様掃ふる

ちてゐるとまことに、水井の坂戸市川の町は清潔、豪傑の多くて、おもしろい  
のではすまない。併しそうと雖あれども、門司へもぐる要所一宮と、蜃風が開けた

の手紙を承認され、その上に「スミ」と記された。この手紙は、元の手紙の複数枚の中から、最も重要な部分を抜き取ったものである。

よもや大男の袋うち兼まつるもゆくうふ米櫃のサシうちうり組ちつけ砂焼モリ  
ウムウツウタスウ鶴あきづけのうわう花やうふうモーリの猪すゑあくべうよわとくま

あゝ見ゆる事ありぬ  
すむらさくやうのゆゑに在りたうどひ

保の比まくハ古れ納とひく悲人毎年十二  
さけびあひ御たり多牛佛社のれちひ通り

あひやの處所を江戸沙子拾達あひもへづるふなー  
○同上不動尊様御内帳あり十二月酉の刻より今日已刻迄

○沙茶も観世音様松岡帳  
十二月三日申の刻より仁玉門と聞いて居用處あり  
藩中の外許と申すを今日八時半より開帳あり

○平治天滿宮用帳 ○谷中天王寺毘沙門様拂用帳 刻

十日 今朝同源川ハ幡文年市  
商ひゆは涉多比市ふ同一

十八日○ニ芝居を秋葉多門の辨納めより年よりて  
十七日○今明日は某も年の市 今日宝あえ修法か一  
七日○今明日は某も年の市

御番あより涉茶御門近所と門跡あより下谷本郷町と疋寒山あよ野寺延年地経

商家  
煤掃

河方八  
行之

遊子

舉白

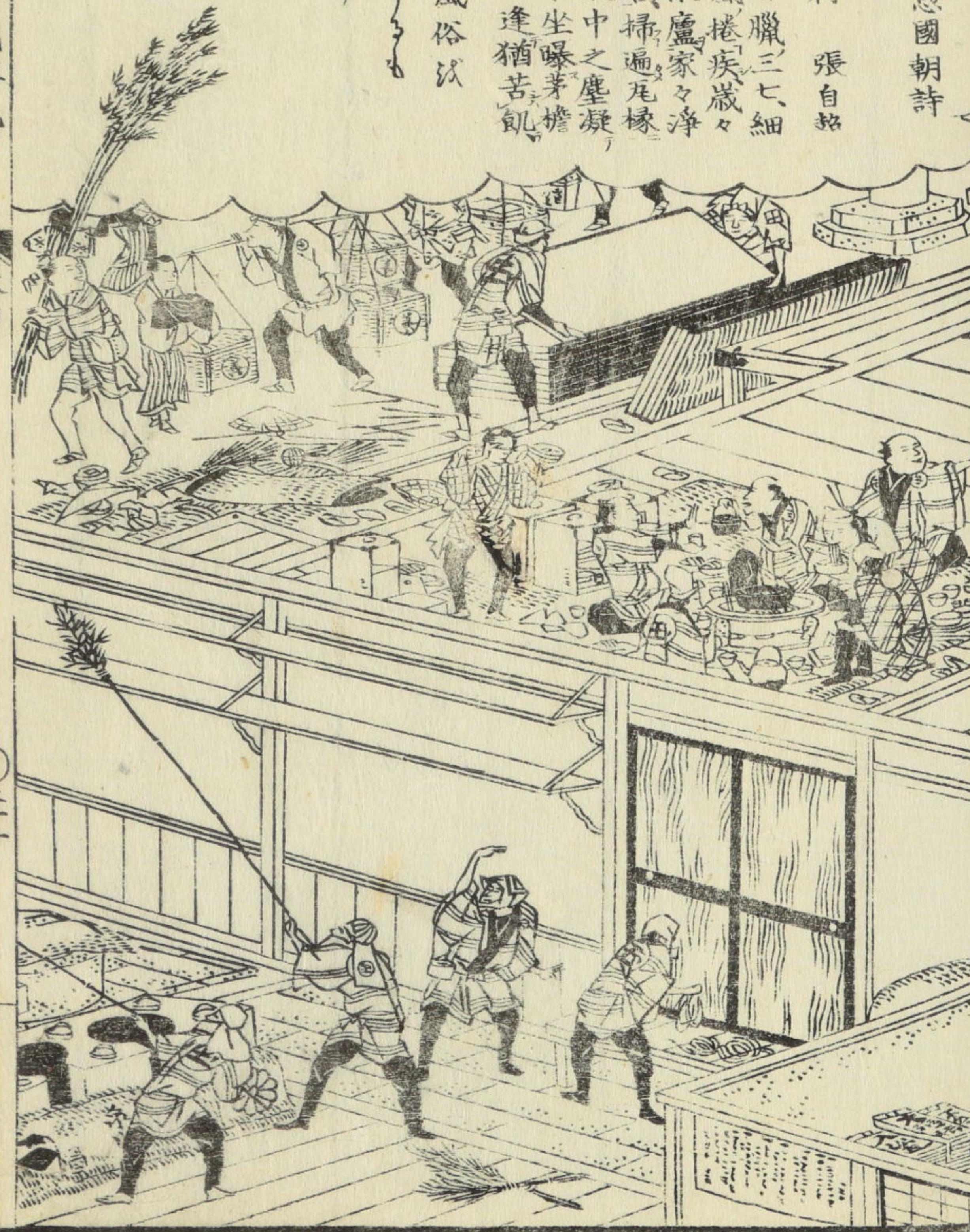


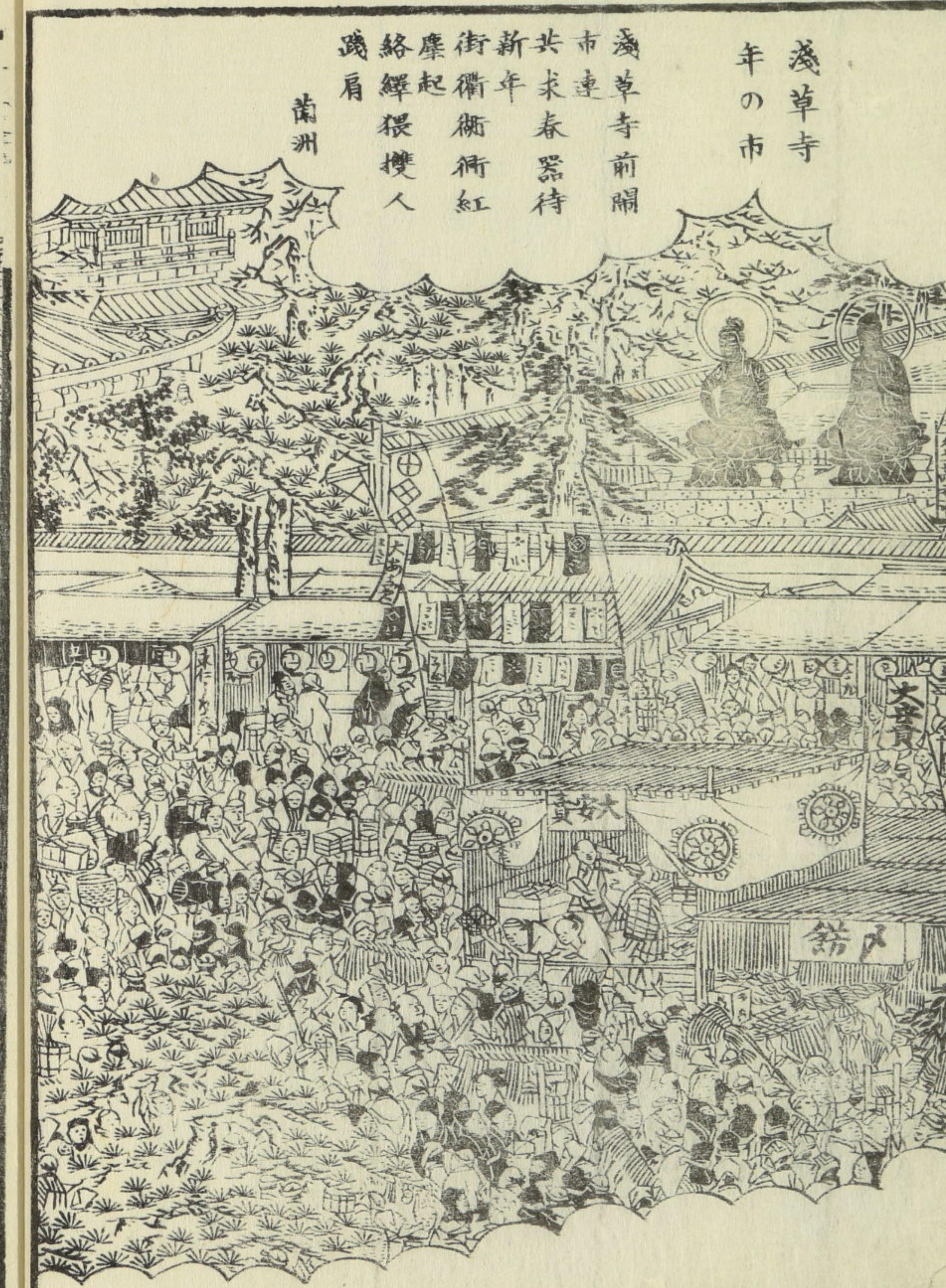
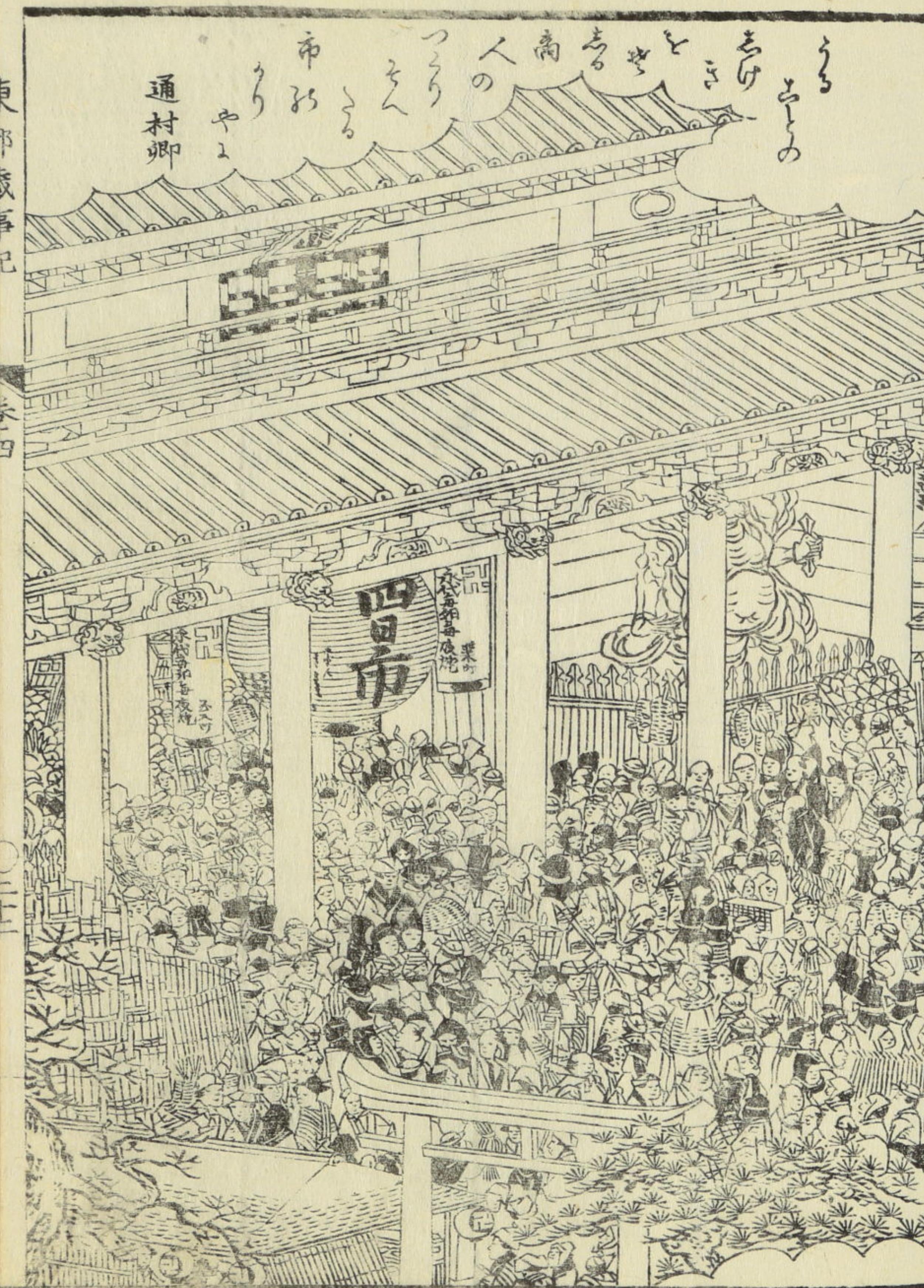
清沈歸愚國朝詩  
別裁

掃塵行 張自始

掃塵練日曠三七細  
竹長竿風捲疾歲々  
荒村守敝廬家々淨  
掃迎新吉掃遍尾椽  
及四圍艱中之塵凝  
不飛朝來坐曝茅檐  
下垢面相逢猶苦飢

和漢風俗次  
回りすも





卷之三

卷之二

漏さばく板面を浦理、射手の備けとて、注連飾りの具庵厨の難毫破魔弓等鞠羽子  
板の手の手持ひを余種の絵巻とあくへ集まつた、ハ卷はやまひもく、シ射鬱の唐人毛と  
求むと極例と、ハ陰時を短辯群集すらゆゑよ多筋のくうちあく太縫ハシマツ、シ洋國ヨウコク、シく  
東西よきとあけ急縫シカワウ様よ目も死りそく、又裏手の方ハ山の高砂利場よ満て殿ハシマツ、シは  
日吉原の娘ひづもすあり

或人云古老の況よけ市も、當代のものの方々が作成の施付ある。雖あらえの市たり  
往古ハ十二月九日十日より、諸國の會日ふと、奈良の毫美群集す。此の市の  
日はまた、うりよりて、あの市と十七日十八日、又延べて、今、新舊の市ふれりとも、御るや  
りあやとあくは、又は、ふ二八の日市立つ。ナリトモ、此  
○人形芝原津彌理市と、本縁縁人形つらひの番役と也。

十九日○涉弟ち雷神ミノイチに奉<sup>ミ</sup>義市  
義と多くあ  
之月のあと

の市 漢書

廿日○廿一日○日神園の社奉年市  
廿一日○ち師河系半写る多の市より近辺の海ひより  
廿二日○廿二日是之神の市奉年市  
アタゴ

廿四〇芝廢寃に至る年の中の市  
の老若男女町ハ芝の辺より日本鷹追の娘少之  
急死

○ 今日、日平の天満宮奉の席 大雨  
トシタレ  
○ 小歳 開口下旬既感知已以邀之を參すより一年の宿ゆゑ

易筋 雜記と筋道と行法

○ 紫菴齋  
道同下旬如意駕臨、小津東一又紫菴先生と申て候。乾魚お送り。初生の嬰兒  
兎々砂庵弓羽、心極満足と送る。羽子板不有事矣。之新入肺毛の郎 露沾

○千軒店浦至茅町を外離市の場所にて破魔弓羽子板手翻木商  
○はじめより近き泊宿を余度拵あよ松竹と申す又ハ佐助と達  
此處南下毛骨らへ南へ余は今之に當りて是處に付く事無

今川橋通り町筋 築堤清へ外 国本橋 田中市牛久庄小浜  
篠田又丁辰木之子外家家主  
○喜よひに生れぬ事あはれ重光御子商へ高麗の八重屋後妻の鄰ひもこの邑より商へ

○本多喜三郎初の繪入絵本より神祇繪画双六の大とひ絵事後序にては「今より最上」東近名産の第一  
なり。萬葉歌詠源う世より後より御茶御門同朋町和泉庄接宣家と云ひ。其の後乃の浮世絵役者絵師紅粉

もかずて事係の筆により墨と賣幼童の紙ひじてあ附大波浪ふゆきする是又宍戸の産となりて  
染屋経とひ云く

廿六日○けぞりの櫻花街ふ遊。一  
遊者多く家組合て寵蒸菴向井薬局の點検もあり  
き傳て居つる人稀未だ少くて渡せいやうて主家のあひてむと  
街中をまわると橋も

あとひき一すく豆板のまうちかへ 俗毛と賓膳又と引すりかとひすりおで下旬駄廻  
小焼と送り奉事と駄毛と降石りとひらぬ魚乾魚と海の駄

橋の毛と毛とてりつる衣紀 木舟 久喜の  
もう一橋の毛と毛と

○東洋の家は門柱と立派連飾とありよ大う今約同  
年

卷之四

卷四

歲暮交加圖

福

の

う

市

り

そく

道

姫

光

江戸名所圖會

出

來



東都賦集

歌令



ふりえをと傭ふえを、安房と總又ハ下総古の邊よりゆきをま、お臺ノ功  
價ヒ室町府ひ正月ゆかりて出への事とまことにゆり○茶研極ふ効乎まの事

時回今已七年矣。大紳樂危拂出了

○諸神社年越の夜 神田明神社  
銀戸天満宮年越紳車通夜  
主余諸社 ○柳原妙見宮里至

卷之三

歸戶歲事記卷之四大尾

## 附錄

## ○江戸二十二所觀音系

古来のれどより享保廿年開板の江戸抄予  
拾遺本載より餘あまくは試略す

- 一 番 金輪山滅多寺
- 二 番 波多野清冰寺
- 三 番 湯宿天森見院
- 四 番 仁和寺
- 五 番 仁和寺
- 六 番 沖迎正念寺
- 七 番 桂林寺
- 八 番 桂林寺
- 九 番 小石川寺
- 十 番 桂林寺
- 十一 番 桂林寺
- 十二 番 桂林寺
- 十三 番 桂林寺
- 十四 番 桂林寺
- 十五 番 桂林寺
- 十六 番 桂林寺
- 十七 番 桂林寺
- 十八 番 桂林寺
- 十九 番 桂林寺
- 二十 番 桂林寺
- 二十一 番 桂林寺
- 二十二 番 桂林寺
- 二十三 番 桂林寺
- 二十四 番 桂林寺
- 二十五 番 桂林寺
- 二十六 番 桂林寺
- 二十七 番 桂林寺
- 二十八 番 桂林寺
- 二十九 番 桂林寺
- 三十 番 桂林寺
- 三十一 番 桂林寺
- 三十二 番 桂林寺
- 三十三 番 桂林寺
- 三十四 番 桂林寺
- 三十五 番 桂林寺
- 三十六 番 桂林寺
- 三十七 番 桂林寺
- 三十八 番 桂林寺
- 三十九 番 桂林寺
- 四十 番 桂林寺
- 四十一 番 桂林寺
- 四十二 番 桂林寺
- 四十三 番 桂林寺
- 四十四 番 桂林寺
- 四十五 番 桂林寺
- 四十六 番 桂林寺
- 四十七 番 桂林寺
- 四十八 番 桂林寺
- 四十九 番 桂林寺
- 五十 番 桂林寺
- 五十一 番 桂林寺
- 五十二 番 桂林寺
- 五十三 番 桂林寺
- 五十四 番 桂林寺
- 五十五 番 桂林寺
- 五十六 番 桂林寺
- 五十七 番 桂林寺
- 五十八 番 桂林寺
- 五十九 番 桂林寺
- 六十 番 桂林寺
- 六十 一 番 桂林寺
- 六十 二 番 桂林寺
- 六十 三 番 桂林寺
- 六十 四 番 桂林寺
- 六十 五 番 桂林寺
- 六十 六 番 桂林寺
- 六十 七 番 桂林寺
- 六十 八 番 桂林寺
- 六十 九 番 桂林寺
- 七十 番 桂林寺
- 七十 一 番 桂林寺
- 七十 二 番 桂林寺
- 七十 三 番 桂林寺
- 七十 四 番 桂林寺
- 七十 五 番 桂林寺
- 七十 六 番 桂林寺
- 七十 七 番 桂林寺
- 七十 八 番 桂林寺
- 七十 九 番 桂林寺
- 八十 番 桂林寺
- 八十 一 番 桂林寺
- 八十 二 番 桂林寺
- 八十 三 番 桂林寺
- 八十 四 番 桂林寺
- 八十 五 番 桂林寺
- 八十 六 番 桂林寺
- 八十 七 番 桂林寺
- 八十 八 番 桂林寺
- 八十 九 番 桂林寺
- 九十 番 桂林寺
- 九十 一 番 桂林寺
- 九十 二 番 桂林寺
- 九十 三 番 桂林寺
- 九十 四 番 桂林寺
- 九十 五 番 桂林寺
- 九十 六 番 桂林寺
- 九十 七 番 桂林寺
- 九十 八 番 桂林寺
- 九十 九 番 桂林寺
- 一百 番 桂林寺

## ○同二十二所觀音系

同石造篇少而り坂東  
二十二本の写り

- 一 番 湯宿因溢寺
- 二 番 駒込<sup>ミキ</sup>称念寺
- 三 番 同 宝源寺
- 四 番 根津桂圓社地
- 五 番 上世津多堂
- 六 番 同 天神社地
- 七 番 駒込長當寺
- 八 番 不落木世善寺
- 九 番 恵心稱焉因
- 十 番 源川本誓寺
- 十一 番 同 八幡社地
- 十二 番 下宗西法院
- 十三 番 同 清冰寺
- 十四 番 般若寺<sup>ハルシ</sup>九品院
- 十五 番 本不圓向院
- 十六 番 源川是屋寺
- 十七 番 同 丁増林寺
- 十八 番 小石川<sup>桂圓</sup>因家寺
- 十九 番 同 天藏院
- 二十 番 波多野<sup>桂圓</sup>金輪院
- 二十一 番 沙利場泉院
- 二十二 番 不恩女天境肉
- 二十三 番 小石川<sup>桂圓</sup>光院
- 二十四 番 日暮里<sup>桂圓</sup>強寺
- 二十五 番 同 正覺寺
- 二十六 番 同 世之間堂
- 二十七 番 蓮云<sup>桂圓</sup>寺
- 二十八 番 大塚町大藏寺
- 二十九 番 同 白井<sup>桂圓</sup>寺
- 三十 番 同 家清寺
- 三十一 番 同 東門<sup>桂圓</sup>院
- 三十二 番 同 家修寺
- 三十三 番 同 家修寺
- 三十四 番 同 家修寺
- 三十五 番 同 家修寺
- 三十六 番 同 家修寺
- 三十七 番 同 家修寺
- 三十八 番 同 家修寺
- 三十九 番 同 家修寺
- 四十 番 同 家修寺
- 四十一 番 同 家修寺
- 四十二 番 同 家修寺
- 四十三 番 同 家修寺
- 四十四 番 同 家修寺
- 四十五 番 同 家修寺
- 四十六 番 同 家修寺
- 四十七 番 同 家修寺
- 四十八 番 同 家修寺
- 四十九 番 同 家修寺
- 五十 番 同 家修寺
- 五十一 番 同 家修寺
- 五十二 番 同 家修寺
- 五十三 番 同 家修寺
- 五十四 番 同 家修寺
- 五十五 番 同 家修寺
- 五十六 番 同 家修寺
- 五十七 番 同 家修寺
- 五十八 番 同 家修寺
- 五十九 番 同 家修寺
- 六十 番 同 家修寺
- 六十 一 番 同 家修寺
- 六十 二 番 同 家修寺
- 六十 三 番 同 家修寺
- 六十 四 番 同 家修寺
- 六十 五 番 同 家修寺
- 六十 六 番 同 家修寺
- 六十 七 番 同 家修寺
- 六十 八 番 同 家修寺
- 六十 九 番 同 家修寺
- 七十 番 同 家修寺
- 七十 一 番 同 家修寺
- 七十 二 番 同 家修寺
- 七十 三 番 同 家修寺
- 七十 四 番 同 家修寺
- 七十 五 番 同 家修寺
- 七十 六 番 同 家修寺
- 七十 七 番 同 家修寺
- 七十 八 番 同 家修寺
- 七十 九 番 同 家修寺
- 八十 番 同 家修寺
- 八十 一 番 同 家修寺
- 八十 二 番 同 家修寺
- 八十 三 番 同 家修寺
- 八十 四 番 同 家修寺
- 八十 五 番 同 家修寺
- 八十 六 番 同 家修寺
- 八十 七 番 同 家修寺
- 八十 八 番 同 家修寺
- 八十 九 番 同 家修寺
- 九十 番 同 家修寺
- 九十 一 番 同 家修寺
- 九十 二 番 同 家修寺
- 九十 三 番 同 家修寺
- 九十 四 番 同 家修寺
- 九十 五 番 同 家修寺
- 九十 六 番 同 家修寺
- 九十 七 番 同 家修寺
- 九十 八 番 同 家修寺
- 九十 九 番 同 家修寺
- 一百 番 同 家修寺

## ○山の手二十二所觀音系

同書拾遠少即ち南島津正体義と相者紙紀  
これとも難<sup>シ</sup>れハ同書も續りてありて略也

- 一 番 半<sup>シ</sup>寺<sup>ス</sup>源<sup>ス</sup>元<sup>ス</sup>寺
- 二 番 小石川<sup>源</sup>是<sup>ス</sup>寺
- 三 番 大塚<sup>源</sup>小<sup>ス</sup>寺
- 四 番 改代<sup>源</sup>是<sup>ス</sup>院
- 五 番 千<sup>シ</sup>寺<sup>ス</sup>
- 六 番 十<sup>シ</sup>番<sup>ス</sup>
- 七 番 十<sup>二</sup>番<sup>ス</sup>
- 八 番 十<sup>九</sup>番<sup>ス</sup>
- 九 番 千<sup>六</sup>番<sup>ス</sup>
- 十 番 十<sup>二</sup>番<sup>ス</sup>
- 十一 番 女<sup>二</sup>番<sup>ス</sup>
- 十二 番 女<sup>八</sup>番<sup>ス</sup>
- 十三 番 女<sup>一</sup>番<sup>ス</sup>
- 十四 番 女<sup>八</sup>番<sup>ス</sup>
- 十五 番 女<sup>八</sup>番<sup>ス</sup>
- 十六 番 女<sup>一</sup>番<sup>ス</sup>
- 十七 番 右<sup>シ</sup>山<sup>ス</sup>放生<sup>ス</sup>寺
- 十八 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 十九 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 二十 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 二十一 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 二十二 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 二十三 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 二十四 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 二十五 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 二十六 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 二十七 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 二十八 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 二十九 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 三十 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 三十一 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 三十二 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 三十三 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 三十四 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 三十五 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 三十六 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 三十七 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 三十八 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 三十九 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 四十 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 四十一 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 四十二 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 四十三 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 四十四 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 四十五 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 四十六 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 四十七 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 四十八 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 四十九 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 五十 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 五十 一 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 五十 二 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 五十 三 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 五十 四 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 五十 五 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 五十 六 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 五十 七 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 五十 八 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 五十 九 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 六十 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 六十 一 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 六十 二 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 六十 三 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 六十 四 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 六十 五 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 六十 六 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 六十 七 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 六十 八 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 六十 九 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 七十 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 七十 一 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 七十 二 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 七十 三 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 七十 四 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 七十 五 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 七十 六 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 七十 七 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 七十 八 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 七十 九 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 八十 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 八十 一 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 八十 二 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 八十 三 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 八十 四 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 八十 五 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 八十 六 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 八十 七 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 八十 八 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 八十 九 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 九十 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 九十 一 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 九十 二 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 九十 三 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 九十 四 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 九十 五 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 九十 六 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 九十 七 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 九十 八 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺
- 九十 九 番 同 津<sup>ス</sup>去<sup>ス</sup>寺
- 一百 番 同 安<sup>ス</sup>禪<sup>ス</sup>寺

右山の手不拘<sup>シ</sup>も享保十八癸卯年<sup>ニ</sup>建る<sup>シ</sup>の石碑あれハ同年の撰<sup>シ</sup>少<sup>シ</sup>難尋也

○近世江戶之十二所觀音參

國書文庫



同之十二術鏡音東

記す。之は御都り上り下りの事に従事す。

- 一 番 満華院西崇福寺  
二 番 同上 九月院 子年 二丁  
三 番 同上 六番  
四 番 同上 本然寺 乙巳 二丁  
五 番 同上 大和寺 十一月 丁  
六 番 同上 本然寺 丙午 二丁  
七 番 同上 本然寺 丙午 二丁  
八 番 八軒寺町松原寺 子年 丁  
九 番 同上 大和寺十一月 丁  
十 番 同上 本然寺 丙午 二丁  
十一 番 同上 本然寺 丙午 二丁  
十二 番 裏新町曹源寺 十一月 二丁  
十三 番 女七番 清水町新松源寺 丙午 二丁  
十四 番 同上 本然寺 丙午 二丁  
十五 番 表新町东玉寺 十一月 二丁

○上野より王子泊近辺要領の字、辛之翁親

あくにちどりのハナコトハ、下宿よりの沙崎から  
上りきりゆへて、小暮トモダツ

- 十六番 下宿於東院山城之南堂寫正觀  
世一番 不思安天達國之竹生寫于  
十四番 上此達以院之井寺寫于  
七番 宮中高光寺史和尼寺等十一面  
世一番 岩中金巖寺江念舍寺寫妙輪  
女二番 石碑高安寺號別號持寫于  
世二番 同卷之中國曉院參良西園事寫  
女一番 同觀音寫于江觀音寺寫妙輪  
次七番 因書墨戲寫于丹波穴穂奇寫正觀

同等堂寺丹後松尾寺写る既  
國光院院山城良峯<sup>ヨシミ子</sup>写正觀萬  
面<sup>ミ</sup>來寺量<sup>ミ</sup>紀州粉河寺写正觀萬  
國不動院捨川彌庵寺写正觀萬  
同谷津村寺<sup>ミ</sup>量<sup>ミ</sup>正觀萬<sup>ミ</sup>写正觀萬  
平塚院<sup>ミ</sup>量<sup>ミ</sup>正觀萬<sup>ミ</sup>写正觀萬  
泊込大運寺<sup>ミ</sup>正觀萬<sup>ミ</sup>写正觀萬  
國朝乃正念寺<sup>ミ</sup>山城<sup>ミ</sup>波多羅量<sup>ミ</sup>写十一面  
國光源<sup>ミ</sup>天和長國寺写正觀萬<sup>ミ</sup>  
國世昌院<sup>ミ</sup>院<sup>ミ</sup>法花寺写正觀萬<sup>ミ</sup>  
銀津種現<sup>ミ</sup>院<sup>ミ</sup>藏川清教寺写正觀萬<sup>ミ</sup>  
以上<sup>ミ</sup>行程凡三里六町余而<sup>ミ</sup>安乐牛の搬<sup>ミ</sup>

十一番  
國善写。唐山礪破砌毛墨準昵  
國仲庵毛己識詩富毛寺写西觀毛  
國昌林毛海角毛寺写  
國勝之角松毛寺院弘象毛尾毛写  
王字達院内毛上坊紀川那智毛寺  
滿迎因通毛丹霞麻根毛寺  
鈞迎毛空一泉毛己識革毛重写正觀毛  
子汰本清林毛山城今慈聖毛寺写西觀毛  
安毛番毛海毛寺写十一面  
世毛番

○萬葉三十之不観焉矣。先得中澤清上人所傳。其事也。一盡ナリ。此  
時ニテ多ク尼河瀬也。此里ふそー上ナリ。而後ナチノ  
一 番 本の石山院  
女三番 本の最勝院  
女六番 川鴨善質院  
十七番 もる鴻蓮苑  
千二番 聰因東聞院  
千四番 澄江觀心院  
十一番 小下川光福院  
九番 千内院  
七番 善慈院  
萬葉東思寺

八番 畠山東漸寺  
世二番 丹戸左光寺 同 津久寺  
世三番 折鷹院照寺 同 法正寺  
世一番 史比正觀寺 五番  
世一番 本不<sub>本不</sub>大<sub>大</sub>山恩照院 六番  
天休<sub>葉平</sub> 南慈院 七番  
天休<sub>天休</sub> 三番  
小高延年寺 二番  
中の石如院<sub>賢士</sub> 一  
○歩葉辺源宗<sub>東洋</sub> 宝<sub>の</sub>因<sub>の</sub>女<sub>の</sub>六<sub>の</sub>萬<sub>の</sub>源<sub>の</sub>穿<sub>の</sub>鑿<sub>の</sub>と<sub>の</sub>一<sub>の</sub>廿<sub>の</sub>三<sub>の</sub>と<sub>の</sub>妙<sub>の</sub>極<sub>の</sub>  
天台<sub>天台</sub>妙寶<sub>妙寶</sub>も<sub>も</sub>と<sub>と</sub>は<sub>は</sub>穿鑿<sub>穿鑿</sub>の<sub>の</sub>人<sub>人</sub>法<sub>法</sub>編<sub>編</sub>妙<sub>妙</sub>人<sub>人</sub>

○源氏之十三不參

○九品佛系 江戸妙子拾遺

上品上聖弘陀  
東鷗喜之正音  
上品中生  
圓相喜樂音  
中品上生  
嗚呼天王音  
中品中生  
珣迎榮松音

同人之嘉言而作之歌集

○最初初建五戸より遷移度々より人勤むの助力より建五  
番 池内端寺より元禄四年より閑眼住持前より江戸移すより  
一 番 池内端寺より元禄四年より閑眼住持前より江戸移すより  
二 番 手取本門寺念ち 三 番 四善里八津光之  
四 番 下至七軒丁新築ち 五 番 上野大仏寺の角 江戸移すより大仏寺側  
六 番 清水寺中西智院六軒の内うちの二戸は池内端寺より  
七 番 二軒は大仏寺より移すより

右記ある三世源蓮社本堂空海上人ハ石見あの人也承庚午十二月生三十三の年協道院入  
り至外下総大岩山武川塔トモあふ隸も譯出ふ墓碑ノテ念の法と修ト又洞海泥塑の仏  
并と造りて徒人少施もあらず大方かくは真率の以、唐と以て院と呼ト有事度々退く又日  
念佛會を修ト四世景登室持もみて元祐庚午四月西歸教主是より先己已知來近隣某  
法士多よ此庵并と感すより既に一傍士小告て云某處よ木雕の地蔵も長き丈餘  
あり安休寺せんと欲せふありへどと古鏡て古鏡と云ふ上人云甚ぞもくへ哉よとあく  
我当寺アシニ依リ大像六幅と説達トて表懸の上也よ妻もヘーと女房も又あまく清上人ナ  
あよもに於て囲衆競て淨成と捨日勤めきモトテ像成つて併の上也よ妻も後房もと改て  
扁にて慈海寺との人等の側より以上上人乃歎記の要と構了

次第に天下を安寧とせりもと徳宗の名をふ事く継と結んずれば皆ひきうち黒手にて宣示  
ニ奉る成の八月以て初て法人と効化し巣窟源内林田の家へ一月うつて元氣散跡  
シテ、高保の賤わきり縫ふ多岐と遙かうとせり以上建立綱紀の要とあらず深戸妙子小  
云六地蔵山新之元も俗名吉三郎とて八重屋の女お七と云ひて、あふ出島より久之樞を  
達すまことひつゝよは後虚あり吉三郎ゆゑびらく

廿二番  
女山番

子延地蔵

同入様町延住寺

廿四番  
女田番

延令地蔵

同管領源光寺

廿七番  
女山番

佛軍地蔵

同牛糞谷妙定院

廿八番  
女八番

火消地蔵

同管領源光寺

廿九番  
次九番

傳守代地蔵

同牛糞谷妙定院

廿九番  
廿六番

請願地蔵

同管領源光寺

三十番  
次一一番

地蔵

麻布岩町延源寺

卅一番  
卅二番

地蔵

同管領源光寺

三十一番  
卅二番

地蔵

芋洗坂教居寺

卅三番  
卅四番

地蔵

同管領源光寺

三十二番  
卅三番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

卅五番  
卅六番

地蔵

同管領源光寺

三十三番  
卅四番

地蔵

鞍馬町延源寺

卅七番  
卅八番

地蔵

同管領源光寺

三十四番  
卅五番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

卅九番  
四十番

地蔵

同管領源光寺

三十五番  
卅六番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

四十番  
四十一番

地蔵

同管領源光寺

三十六番  
卅七番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

四十二番  
四十三番

地蔵

同管領源光寺

三十七番  
卅八番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

四十四番  
四十五番

地蔵

同管領源光寺

三十八番  
卅九番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

四十五番  
四十六番

地蔵

同管領源光寺

三十九番  
四十番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

四十六番  
四十七番

地蔵

同管領源光寺

四十番  
四十一番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

四十七番  
四十八番

地蔵

同管領源光寺

四十二番  
四十三番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

四十八番  
四十九番

地蔵

同管領源光寺

四十三番  
四十四番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

五十番  
五十一番

地蔵

同管領源光寺

四十四番  
四十五番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

五十二番  
五十三番

地蔵

同管領源光寺

四十五番  
四十六番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

五十四番  
五十五番

地蔵

同管領源光寺

四十六番  
四十七番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

五十五番  
五十六番

地蔵

同管領源光寺

四十七番  
四十八番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

五十六番  
五十七番

地蔵

同管領源光寺

四十八番  
四十九番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

五十七番  
五十八番

地蔵

同管領源光寺

四十九番  
五十番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

五十八番  
五十九番

地蔵

同管領源光寺

五十番  
五十一番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

五十九番  
六十番

地蔵

同管領源光寺

五十一番  
五十二番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

六十番  
六十一番

地蔵

同管領源光寺

五十二番  
五十三番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

六十二番  
六十三番

地蔵

同管領源光寺

五十三番  
五十四番

地蔵

鞍馬橋崇源寺

六十三番  
六十四番

地蔵

同管領源光寺

## ○江戸山の手向十八不地蔵尊

一 番

延令地蔵

守學

坂本入善良感寺

二 番

子安地蔵

同 輕蓮寺

三 番

子安地蔵

四 番

子安地蔵

同 静蓮寺

五 番

子安地蔵

同 慶運寺

六 番

子安地蔵

同 延住寺

七 番

子安地蔵

同 延住寺

八 番

子安地蔵

同 延住寺

九 番

子安地蔵

同 延住寺

十 番

子安地蔵

同 延住寺

十一 番

子安地蔵

同 延住寺

十二 番

子安地蔵

同 延住寺

十三 番

子安地蔵

同 延住寺

十四 番

子安地蔵

同 延住寺

十五 番

子安地蔵

同 延住寺

十六 番

子安地蔵

同 延住寺

十七 番

子安地蔵

同 延住寺

十八 番

子安地蔵

同 延住寺

十九 番

子安地蔵

同 延住寺

二十 番

子安地蔵

同 延住寺

廿一 番

子安地蔵

同 延住寺

廿二 番

子安地蔵

二番 七九番 番番

十番 六番

四番

最上

世嗣塔

下公 老者

長松

延命地

延命塔

久松

眼洗地

安產地

大喜也

滅絕地

愛護地

大喜也

滅命地

國運地

北翁

通鑑地

厄除地

輪澤閑寺

迦葉地

厄除地

子經者

金松高

厄除地

源辰也

水寺

厄除地

十六番

華輪

厄除地

易初院

公垂院

厄除地

山谷

小塚

厄除地

春溪院

春溪院

厄除地

山谷

山谷

厄除地

易初院

易初院

厄除地

瑞泉寺

瑞泉寺

厄除地

作願寺

作願寺

厄除地

瑞泉寺

瑞泉寺

○荒川邊八十石法事巡拜 二月某日

六十七番	義光院	善福寺	六十八番	本ノ下	家昌院	五十九番	大畠	心覺院
七十番	多良院	高光寺	七十一番	白髭	西光院	七十二番	吉原	蓮光院
七十三番	海戸	宝蓮寺	七十四番	同	経光院	七十五番	同	東覺院
七十六番	大源	勝智院	七十七番	沙村	持宗院	七十八番	同	中の石光町
七十九番	涉峯院	仙苑院	八十番	同	本覺院	七十九番	同	阿蘇川町大宗院
八十二番	同	延命院	八十三番	同	觀音院	八十番	同	どぶ夜比光院
八十四番	上野丁	一家院	八十五番	同	八十五番	八十六番	同	新田本大聖院
八十八番	金松	子手院	八十九番	沙峯院	清光院	九〇番	新坂本	大聖院

○弘法大师二十一ヶ雨集 東洋湯源異事もよ弘法大师  
此一帯の因故を審む所  
○同江戸八千八百雨集 二月の象下  
既に記せり

圓光大師遣牒写妙法蓮華經  
正月廿四日廿八日小滿  
芝塔上寺山下安靜定院接濟慈庵寺寫  
安永年中之牒也

東都歲事記

序錄

- 二番 二田十郎町林泉也 大和天の番名よ漫然も写  
三番 三田十郎町林泉也 大和天の番名よ漫然も写  
四番 四田十郎町林泉也 大和天の番名よ漫然も写  
五番 五田十郎町林泉也 大和天の番名よ漫然も写  
六番 六田十郎町林泉也 大和天の番名よ漫然も写  
七番 七田十郎町林泉也 大和天の番名よ漫然も写  
八番 八田十郎町林泉也 大和天の番名よ漫然も写  
九番 九田十郎町林泉也 大和天の番名よ漫然も写  
十番 同 長泉律院 ふ謙清も写  
十一番 同 赤坂駄町寺 真見原空也写  
十二番 同 谷野志太宗寺 京詔大原勝林も写  
十三番 小石川傍通院 京詔栗生源光助も写  
十四番 国師寺量院 紀伊奈村報恩寺也  
十五番 坂本入谷長松也 京詔清潤川月輪も写  
十六番 トガ幡隨志院 京詔吉田百万遍如恩も写  
十七番 同 源寧也 美術榜社村誕生も写  
十八番 法華寺町林惟院 京詔みまき町法然も写  
十九番 同 梅翁也 京詔慈照院也  
二十番 同 新宿陽秀院 京詔小松谷山林も写  
廿一番 新寺城主町小蓮院 仲根山田欣津も写  
廿二番 本不居止也 京詔清誠二毛院也  
廿三番 同 四向院 大坂天王も念仏堂也  
廿四番 滅門法縹也 大和萬麻興院種生院也  
廿五番 同 異聲也 京詔あさ華頂山智恩教院也  
廿六番 くともあもれむ母よひくもまのののうすのうんうる

## ○江戸十ヶ所祖師系

淀川津心も

同 不法恩も

沙葉寺慈也も

同 本覺寺

同 妙善寺

日 大遠も

下谷宗延も

谷中瑞林も

同 宗林寺

同 达善寺

## ○圓覺系拾遠

正月十六日の糸下より死せる不平六ヶ所義と拂あくの画帳と掛りの  
神田松下町不動内 無治屋地蔵内

田畠

笠置寺

同 仲意も

同

泥の端草安也

同 国清も

十王院婆

小石川

光因も

牛込

宝祥寺

同 楠木

同

同

高達も

同 国景も

鬼王院

同

淡谷

冰川社内

同 開基

同

高達も

同 舟

同

同

市谷

谷町京恩も

赤坂一木移聚も

同

赤坂至下清岩院院

同

同

同

谷京村

長命寺傳不

同 漢波

同

澤心も

同

同

同

高辻村

万福寺

新井村

同

高辻

同

同

同

淡谷

水川社内

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高光寺

同 漢波

同

澤心も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同

高達も

同

同

同

高辻

高照寺

同 楠木

同&lt;/

六十番

同吉中善院

六十一番

不思庵生淨院

六十二番

不空幡隨喜院

六十三番

山房丁大聖院

六十四番

不空舍迦院

六十五番

根岸國光寺

六十六番

△勝景漫抄古

六十七番

勝景漫抄古

牟婁

勝景漫抄古

六十八番

△門野城傳抄古

六十九番

勝景漫抄古

勝景漫抄古

七十番

同月洲洲

七十一番

勝景漫抄古

勝景漫抄古

七十二番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

七十三番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

七十四番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

七十五番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

七十六番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

七十七番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

七十八番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

七十九番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

八十番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

八十一番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

八十二番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

八十三番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

八十四番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

八十五番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

八十六番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

八十七番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

八十八番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

八十九番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

九十分

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

九十一番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

九十二番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

九十三番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

九十四番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

九十五番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

九十六番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

九十七番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

九十八番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

九十九番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百番

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

## 附錄

一百一

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百二

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百三

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百四

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百五

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百六

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百七

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百八

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百九

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百十

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百一

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百二

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百三

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百四

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百五

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百六

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百七

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百八

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百九

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百十

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百一

同

勝景漫抄古

勝景漫抄古

一百二

同

勝景漫抄古

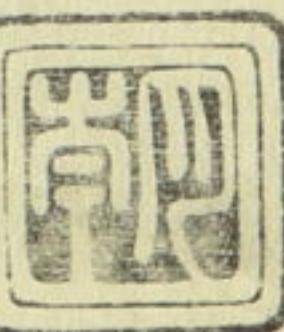
勝景漫抄古

一百三

同

勝景漫抄古

東都 齋藤月岑幸成編纂



長谷川 雪旦圖畫

男  
松齋

雪堤補畫



天保九戌孟春發行

全

須原屋

伊八

江戸日本橋通壹町目

須原屋茂兵衛

同淺草茅町貳町目

須原屋

伊八



書賈

三都發

京都寺町通松原下ル

勝村治右衛門

大坂心齊橋筋唐物町

河内屋太助

同心齋橋筋安堂寺町

秋田屋太右衛門

江戸兩國吉川町

田佐助

同神田鍛冶町二町目

北山島順四郎

同淺草新寺町

和泉屋庄次郎

同芝神明前

岡田屋嘉七郎

同日本橋通二町目

山城屋佐兵衛

同横山町三丁目

和泉屋金右衛門

同今川橋本銀町

永樂屋東四郎

同日本橋通二町目

小林新兵衛

同神田通新石町

須原屋源助

同日本橋通四町目

須原屋佐助

江戸名所圖會 全部廿卷

齊藤長秋居士 編 同 莊齋先生校正

既刻

法橋雪旦先生画圖

拾遺江戸名所圖會

初編五卷  
二編五卷

齊藤月岑子 編輯  
法橋雪旦先生画圖

近刻

男 雪堤先生作画

前の五巻ふはに城下勝區前編に漏ぐるを集め後の五巻  
うち郊外の佳境と稱むまゝ秩父二十四番ヶ靈塲と稱  
するものは先考莞齋幸孝との遺稿なり

箱根 熱海 溫泉名勝圖會 全三卷

莞齋幸孝先生遺稿  
法橋雪旦先生画圖

近刻

男 雪堤子 補画

